

卸仲買小賣ハ其品目ヲ記入シ雜商又ハ雜種ノ諸營業ハ等級ノ下ニ
各共業目ヲ記入スヘシ例ヘハ何等呉服卸商何等菓子小賣商何等質
屋等ノ如シ他業ヲ兼テ營ム者ハ數面ノ看板ヲ掲ケ或ハ一面ニ數業
ヲ併記スルモ營業者ノ便宜ニ任ス尤鑑札ヲ附與スルモノハ看板ヲ
要セス

第十三條 警察署ヘ願出營業スル者ノ中旅館屋雇人受宿劇場諸遊藝所
諸興行遊技場人寄席遊藝師匠ハ前條雛形ノ看板ヲ作り警察署ノ檢
印ヲ受ケ以テ之ヲ掲ケ遊藝藝人俳優相撲藝妓幫間屠牛渡世ノ者各
自攜帶スヘキ鑑札ハ警察署ニ於テ作り之ヲ附與スヘシ

第十四條 總テ廢業ノ節ハ鑑札相添可申立且看板ハ最初檢印ヲ受ケ
タル役所ヘ消印ヲ乞ヘシ

第十五條 條規ニ違犯シ或ハ商高等書出シ方ヲ偽ル者ハ明治十年第
十三号公布ニ照シ處分スヘシ

第十六條 他管内ヨリ來テ營業スルモノ 行商ノ類或ハ雇使セ
ラル、モノハ除之 戸長
ニ於テ取調前各條遵守セシムヘシ

匹立金四十錢荷積馬車金二十錢

營業雜種稅額表

業目	等級					
	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等
會社	商高三千圓以上 收得高三百圓以上 十五圓	二千五百圓以上 二百五十圓以上 十二圓五十錢	二千八百圓以上 八百八十圓以上 九圓	千圓以上 百圓以上 五圓	五百圓以上 二百圓以上 一圓	五百圓以上 二百圓以上 一圓
卸賣商	商高三千圓以上 十五圓	二千五百圓以上 十二圓五十錢	千八百圓以上 九圓	千圓以上 五百圓以上 五圓	五百圓以上 二百圓以上 一圓	五百圓以上 二百圓以上 一圓
通運會社 暨運又八 回漕	收得高三百八十圓以上 十五圓	三百五十圓以上 十圓	五百五十圓以上 六圓	百圓以上 四圓	五十圓以上 二十圓	五十圓以上 二十圓
仲買	全三百圓以上 十五圓	二百五十圓以上 十二圓五十錢	八百八十圓以上 九圓	百圓以上 五圓	五十圓以上 二十圓	五十圓以上 二十圓
小商賣	商高三千圓以上 收得高三百圓以上 十五圓	二千五百圓以上 二百五十圓以上 十二圓五十錢	千八百圓以上 九圓	千圓以上 五百圓以上 五圓	五百圓以上 二百圓以上 一圓	五百圓以上 二百圓以上 一圓
製造所	商高三千圓以上 十五圓	二千五百圓以上 十二圓五十錢	千八百圓以上 九圓	千圓以上 五百圓以上 五圓	五百圓以上 二百圓以上 一圓	五百圓以上 二百圓以上 一圓
料理茶屋 待合茶屋 遊船茶屋 芝居茶屋	全八百圓以上 十二圓	七百圓以上 十圓五十錢	五百圓以上 七圓五十錢	三百圓以上 四圓五十錢	二百圓以上 三圓	二百圓以上 三圓
質換屋	收得高三百圓以上 十五圓	二百五十圓以上 十二圓五十錢	八百八十圓以上 九圓	百圓以上 五圓	五十圓以上 二十圓五十錢	五十圓以上 二十圓五十錢
古着 古金 古道具	商高三千圓以上 十圓	千五百圓以上 七圓五十錢	千圓以上 五圓	五百圓以上 二圓五十錢	二百圓以上 一圓	二百圓以上 一圓
旅館 飲食店 諸店	全二千圓以上 十圓	千五百圓以上 七圓五十錢	千圓以上 五圓	五百圓以上 二圓五十錢	二百圓以上 一圓	二百圓以上 一圓
理髮床	收得高六百圓以上 三圓五十錢	五百圓以上 三圓	四百圓以上 二圓五十錢	三百圓以上 一圓八十錢	二百圓以上 一圓二十錢	二百圓以上 一圓二十錢
雇人受宿	全百圓以上 五圓	五十圓以上 二圓五十錢	三十圓以上 一圓五十錢	十五圓以上 七十五錢	五圓以上 二圓五十錢	五圓以上 二圓五十錢
湯屋	湯錢八百圓以上 五圓	六百圓以上 三圓五十錢	四百圓以上 二圓四十錢	三百圓以上 一圓八十錢	二百圓以上 一圓二十錢	二百圓以上 一圓二十錢
人寄席	上り高二百圓以上 十二圓	百六十圓以上 八圓	百三十圓以上 六圓	百圓以上 五圓	八十圓以上 四圓	六十圓以上 三圓

遊藝所 演劇行	市場	屠畜	乘馬	遊技場	全稼人	遊藝師匠	藝妓 間	俳優	相撲	水車	人力車	馬車	荷車	浮漁船等
上り高百分ノ五	上り高百分ノ五	全 三十錢	一頭ニ付 五十錢	五圓	上等 收得高四十圓以上 八圓 下等 收得高四十圓未満 四圓	五圓	月三稅 圓	全 三十圓 全 二十圓	上等 五圓 下等 三圓	九尺以上々等 一圓 九尺未満下等 五十錢	二人乘 八十錢 一人乘 五十錢	國稅ノ五分一卽二匹立金六十錢〇一匹立金四十錢荷積馬車金二十錢	大七以上ハ金五十錢〇大六以下中小車ハ金二十五錢	國稅ノ半額卽舳梁ヨリ艦梁迄三間迄ハ一ヶ年金十錢〇以上長一間ヲ加

梁ヨリ艦梁迄三間迄ハ一ヶ年金十錢〇以上長一間ヲ加ル毎ニ金七錢五厘ヲ増ス

下錢〇六六以下中小車ハ金二十五錢

一匹立金六十錢〇二匹立金四十錢荷積馬車金三十錢

一人乘
五十錢

九尺未滿下等
五十錢

下等
三十圓

全
二十圓

下等
四得高四十圓未滿

ノ五

ノ五

鑑札ヲ要スルモノハ第三第四第五雜形ノ通り取計ヘシ第四第五雜形ノ鑑札ハ豫メ郡區役所ニ於テ附托スヘシ
 但新規ノ捕魚採藻願ハ縣廳ニ於テ允許シタルヲ指令下付ノ節郡區役所於テ書面ニ照シ營業鑑札ヲ製シ添ヘテ之レヲ授與スヘシ
 第三項 第一項ノ創廢ハ各自郡區役所ヘ届出タル日ヲ以テ分界シ一ヶ月分以纏メ翌月十日限り第六雜形ノ表面ヲ以テ届出スヘシ
 第四項 稅則第三條各營業歲入高ハ戶長役場ニ於テ調査ノ上第六條ニ據リ本稅或ハ半稅ヲ課スヘキモノ甲乙二類ニ分チ本年丙百七十
 三番第三十一條雜形ニ照準製表シ郡區役所ニ指出サセ郡區役所ニ於テハ之レヲ再查シ稅則第一條稅額等級表ニ照シ業目ノ所ヘ各等級ノ小印ヲ捺シ而シテ第七雜形ノ總計表ヲ添ヘ一月三十日限り必ス縣廳ヘ指出スベシ
 但歲入金額制限外ノ貧商及盲人ノ遊藝ヲ以テ生計ヲナスモノハ本項調査ノ際業目八名ノミ戶長役場ヨリ郡區役所ニ届出ツヘシ

第五項 前項歲入高ハ縣廳ニ於テ調査濟ノ上下附スル所ノ甲乙表面ニ據リ其等級ヲ各自ニ示シ前年等級ニ進退アルモノハ看取ヲ書改メシムヘシ
 第六項 年々一月ヨリ六月マテニ開業ノモノモ亦第四項ニヨリ現營業ノ月數收入高ヲ調査シ之レヲ一ケ年ニ概算シ七月十日限り等級ヲ届出ルノ手續等前項ニ與ナルナシ
 第七項 稅金納入ノ手續ハ追テ相達スヘシ

第一雜形

營業(看取御檢印願或ハ)
(鑑札願)(御書換願)
 (看板再御檢印願)

明治 年 月 日

(何郡區何町番邸)

等 (何々商) 戶長役場印

(族籍) (姓名)(印)

書換事故

第二雛形

廢業御届

明治(何)年(何)月(何)日

(何々商)

戸長役場印

(何郡區何町番邸)

(族籍)

(姓名)

(印)

第三雛形

横ニテ 二寸五分

石川縣何郡區何町番邸

何某

表 ○ 何々行商鑑札

或ハ飛馬

何等

〆出41

年号 月 日

裏

○ 何郡區役所

印

第四雛形

三寸五分

(石川縣何郡區何町番邸)

(何某)〔外幾名〕

○ 大漁鑑札

但

(魚名并ニ器具
漁丁人員)

石川縣

〆出41

明治(何)年(何)月(何)日

○ (郡區役所)

印

第五雛形

二寸五分

(石川縣何郡區何町番邸)

○ 普通漁鑑札

但

(魚名器具
川流網十方)

石川縣

〆出41

裏面ハ大漁鑑札ト
全

第六第七 雜形畧ス

○明治十二年十一月十一日丙二百八十一番達

郡區役所

這回甲百七十二番布達中諸營業看板ノ檢印并鑑札共即今暨今后年々盛衰ニ因リ書換ヲ請求スルモノ用紙短冊面等級ノ位置及願書ハ各自等級記入可指出ニ付テハ戶長役場ニ於テ稅則第一條稅額表ニ照シ丙百七十三番達ニ由リ取調タル歲入額暨今後稅則第三條ニ由リ其等級ヲ調査シ戶長所ハ代理筆者ノ認印ヲ捺シ郡區役所ニ於テモ之ヲ査定シ稅則第十二條ノ種別ニ由リ取扱フヘシ此旨爲心得相達候事

但開業ノ半期等級未定ノモノハ此限ニアラス

○明治十二年十一月二十八日甲百九十八番布達

本年甲百七十二番布達中營業雜種稅額表面小賣雜商ノ内損料貸等ノ如キ業弊ノ者ハ其收入高表面商高ノ十分一ヲ以テ同等ニ比準候義ト可相心得此旨布達候事

甲

○明治十二年十二月十九日甲二百十二番布達

先般營業雜種稅則發行候ニ付テハ該則ニ係ル諸營業ハ看板ノ檢印并鑑札可願受筈ニ候處相撲營業人ノ如キハ新規ノ稅目ニ付自然規則熟知セサル邊ヨリ許可ヲ不得營業スルモノ間々有之哉ノ趣不都合ノ義ニ候條該業ヲ營ムモノハ速ニ免許鑑札可願受且旅籠屋諸遊覽所諸遊技場遊藝師匠同稼人ハ營業ノ惣稱ニシテ出願ノ際單ニ惣稱而已記載候テハ差支候條冷泉宿屋草花園室内射的琴三味線淨瑠璃祭文新内等各自營ム所ノ業目并總名トモ別紙雜形ニ照準必ラス願書ヘ記載可願出此旨布達候事

何々 總稱ヲ 開業願 記ス

一何々 業目ヲ 記ス

右(何郡區何町村番地何某家宅或ハ地所借受)營業仕度御座候間御檢印被下度看板相副此段奉願候以上

何郡區何町村番地 士族或ハ平民

年号月日

何 某 印

(何郡區何町村番地)
土族或ハ平民
(地主又ハ家主)

戸長 (何 某 印)

何 某 印

縣長官殿

何々甲号ニ 轉籍(改名又ハ何々)ニ付看板御消印(御檢印)願

一何等何々同シ 甲号ニ

右從來(父或ハ誰)(何郡區何町村番地何某家宅或ハ地所借受)營業
罷在候處今度轉籍(改名或ハ相續其他何々)仕候ニ付御消印(御檢
印)被下度看板相副此段奉願候以上

何郡區何町村番地
土族或ハ平民(何某相續人)

乙

丙

年号月日

何 某 印

(何郡區何町村番地)
土族或ハ平民
(家主或ハ地主)

(何 某 印)

戸長 何 某 印

縣長官殿

何々甲号ニ 廢業御届

一何等何々同シ 甲号ニ

右從來(何郡區何町村番地何某家宅或ハ地所借受)營業罷在候處今
度廢業仕候ニ付御消印被下度看板相副此旨御届申上候以上

何郡區何町村番地
土族或ハ平民

年号月日 何 某 印

第二

(何郡區何町村番地)
(士族或ハ平民)
(家主又ハ地主)

(何) 某印

戸長

何 某印

縣長官殿

何々 甲号ニ 營業(鑑札御書換)願

一(何等)何々 甲号ニ (慣習給料) 藝名何々

右營業(罷在候處燒失或ハ改名其他何々仕候ニ付代リ)仕度御座候
間御鑑札御下渡被下度此段奉願候以上

何郡區何町村番地士族或ハ平民
又ハ誰妻カ長二三男女トカ

年号 月 日

戸長

何 某印

成

縣長官殿

何 某印

何々 甲号ニ 廢業御届

一何等何々 甲号ニ 同シ

藝名何々

右廢業仕候ニ付御鑑札相添此段御届申上候以上

何郡區何町村番地士族或ハ平民
何某又ハ長二三男女トカ

年号 月 日

何 某印

戸長

何 某印

縣長官殿

○明治十三年二月六日丙二十番達

郡區役所

物貨運輸營業ノ儀ハ客歲第十六号公布發令以後ハ各自營業不指支

無論ニ候得共中ニハ飛脚渡世或ハ物貨中使營業ノ者ニシテ各所ニ物貨取扱所又ハ支店ヲ設ケ甲地ヨリ乙地ヘ物貨運搬ノ際人馬繼立營業者同様ノ所業有之趣相聞不都合ノ事ニ候元來物貨運搬營業ハ他人ノ物貨ヲ請負運搬スルモノニシテ其請負物貨ヲ自己又ハ雇人ヲシテ護送シ約束ノ地ニ遊達スルニ止リ人馬繼立營業ハ平常人馬ヲ具備シ公私ノ需メニ應シ時々人馬ヲ掛渡甲驛村ヨリ乙驛村ヘ繼立ルモノニシテ各營業筋判然區域有之モノニ候條其區域ヲ混セヌ專ラ各自ノ營業ニ從事シ心得違無之様該營業者ヘ可及論達此旨相達候事

○明治十三年三月三日丙三十八番達

郡區役所

本年丙十九番ヲ以テ内國通運會社出張所并分社共營業看板様名書裁方ノ儀相達候趣モ有之處右ハ取消左ノ通更正候條此旨相達候事
諸物貨運搬并人馬繼立營業ヲ兼ヌル本社分社及出張所看板書式

租

<p>前同漸通搬專業ノ向書式</p> <p>□ (郡區役所檢印)</p> <p>何等 諸物貨運搬營業 人馬繼立 社名等</p>	<p>前同漸通搬專業ノ向書式</p> <p>□ (同上)</p> <p>何等諸物貨運搬營業 同上</p>	<p>前同漸通搬專業ノ向書式</p> <p>□ (同上)</p> <p>何等人馬繼立營業 同上</p>
---	--	---

○明治十三年三月十八日丙四十九番達

郡區役所

自今興行願ノ義警察署ニ於テ許可シタル書面ハ願人所轄ノ郡區役所へ送致シ郡區役所ニ於テハ税金取立候手續ヲ了シ所轄分署へ送致シ分署ヨリ願人へ下附スル義ト可相心得此旨相達候事

○明治十三年四月十六日租二十八番達

郡區役所

水車設立 自用 出願ノ際願書及繪圖面共詳細ナラサル向往々有之調査上差聞不少候條向後出願ノ者ハ詳細圖面 設立位置車水輪經及河

烟宅地等ノ區別色分ナシ地至隣地 川名稱舊新分水々路田

并水路關係村々共詳明ナルヲ要ス ヲ製シ近傍及水上水下町村協

議ヲ遂ケ障礙無之趣保証書或ハ願書面ニ明記連著ヲナシ爲致出願郡區役所ニ於テモ尙遂調査障礙ノ有無書面相添可差出此旨相達候事

但賣買讓渡等ノ節モ讓受人ニ於テ水路等關係村々更ニ協議ヲ遂

少保証書ヲ添候儀等本文ニ同シ

郡區役所

○明治十三年四月二十七日丙七十四番達

雜糧稅ノ内市場演劇諸興行遊覽所屠牛稅調查ノ都合有之毎月營業

注現收入金 稅則第四條ニ 及ヒ屠牛數別紙甲乙離形之通り各戸長ヨ

リ届出其郡區役所ニ於テ取纏メ翌月五日限可届出此旨相達候事

(甲形離形ス)

但本月分ヨリ届出係義ト相心得ヘシ

乙離形何月中市場演劇諸興行遊覽所屠牛營業届

何市場 (收税人氏名) 何某

現收入高金何程

何市場 何某

現收入高金何程

何月何日ヨリ 演劇 何某

何月何日マテ 演劇 何某

現收入高金何程 何某

〔一〕興行數月ニ及フ向ハ其終日届出スヘシ但毎年之月ニ限リ四月ヨリ七月ヘ至ル分ハ六月三十日マテ中仕切ヲ以収入高ヲ届出スヘシ出外諸興行等跡月ノ分之ニ準スヘシ

一 何日ヨリ 何興行 何日マテ 何某

現収入高金何程

一 何日ヨリ 遊覽所 何日マテ 何某

現収入高金何程

一 何頭屠牛 何某
一 何頭同上 何某

右ノ外所管内市場營業其他トモ收税ニ關スル分無之候此段御届申候也

何町村等戸長

戸長 役場 印

何某

年号 月 日

藝妓

長官宛

○明治十三年八月十二日甲百八十八番布達
自今學翹營業ノモノハ遊藝稼入ノ業中へ相加へ鑑札付與候條此旨布達候事

○明治十二年十一月二十四日甲百九十六番布達

明治十年四月丙百拾番越前國七郡ハ丙百八番ヲ以區戸長へ相達置候藝妓自稼及貸坐敷假規則ハ相廢シ更ニ藝妓取締規則別冊之通改定候條此旨布達候事

藝妓取締規則

第一條 藝妓ハ歌舞音曲ノ遊藝ヲ以テ人ノ歡悅ニ供スルモノナレハ根柢ノ所業アルヘカラス

第二條 藝妓ヲ營マント欲スルモノハ親戚保証ノ連印ヲ以テ願出ルニアラサレハ之ヲ許サス尤營業滿期又ハ廢業ノ節ハ鑑札返納ヲ怠ルヘカラス
但他管下ノモノハ管轄所或ハ警察署及郡廳役所戸長役場等ノ添

十三年
甲五十年
六番ヲ
以改正
十三年
甲六十年

第二

百九十二

七番ヲ
以但書
追加
十三
甲五
八番
追加

翰ノレハ之レヲ許スト雖モ本條保証等身元引受人ヲ立ツヘシ
 第三條 右免許ヲ得タル者月税金ハ營業雜種稅則第九條之通り毎月
 二十五日限戸長役場へ相納ムヘシ
 免許ヲ得テ授業所設置ノ地方ニ於營業スル者ハ同所ニ就業スヘシ
 第四條 藝妓營業ノ日數ヲ起算スルニハ左ノ割合ヲ以鑑札送致ノ日
 限ヲ除去シ其翌日ヨリ起算ス
 金澤區内ハ鑑札發付ノ日ヨリ三日加賀國金澤區越中國ノ内礪波勢
 水ノ兩郡并能登國鹿島羽咋兩郡暨越前國ノ内坂井郡ハ七日其他ハ
 十日ヲ除キ其新規願ノ上出稼スルモノハ右猶豫日數ノ外里程ニ應
 シ一日十里二里以上一日ノ猶豫ヲ與ヘノ計算ヲ以テ相當ノ日數
 ナ除去ス
 第五條 甲地ニテ鑑札ヲ受タル者乙地へ移轉或ハ出稼ノ節ハ鑑札書
 加
 籍ニ戻リ鑑札書換出願スルハ右三日ノ外前條ノ計算ヲ以テ道程ニ
 應シ猶豫ヲ與フヘシ

但鑑札書換等ノ上尙竊ニ甲地ニ於テ其業ヲ營ミ又ハ鑑札ノ書換
 ナ受スシテ乙地ニ出稼等ヲ爲スヘカラス且三十日以内一時出稼
 ノ者ハ假証ヲ申受ヘシ

何郡區何町村番地
 放某何女トカ

藝妓 何 某

年 齡

何年何月何日ヨリ何日間何地へ出稼

年号月日

郡區印

十三
甲
五
八
番
追加
正
改
正

第六條 甲地ヨリ乙地へ出稼ノモハ甲地ニテ収稅スヘシ
 第七條 客席へ鑑札ヲ持參セス或ハ鑑札ヲ貸借スヘカラス
 第八條 精ヲ知テ無鑑札類業ノモノヲ客席へ媒介シ及ヒ寄留ヲ諾ス
 ヘカラス

第二

百九十三

第二

百九十四

第九條 總テ客ノ金遣ヒ不當ナル歟其他不審ノ所業アラハ不取逃様品能ク嚮シ置キ席王或ハ他人ヲシテ最寄警察本分署又ハ巡行ノ巡查ニ密告スヘシ

十三
年
五月
十六
日
追
加

第十條 尊長タルモノ藝妓ヲ教令シテ此規則ヲ犯サシメ又ハ無鑑札ノ婦女ヲシテ藝妓ノ類業ヲナシムルモノハ總テ其教令者ヲ罰ス

○明治十年八月四日丙百九十一番達 區戸長

土族ニシテ藝妓歌舞音曲藝人 興行ヲナシ人ノ玩弄ニ供スルモノ 并娼妓貸座敷等營業候義是迄願ニヨリ聞届置候向モ在之候處今般其筋ヨリ指令ノ次第モ在之自今不相成候條速ニ廢業可届出此旨營業人へ可相達候事

但本文廢業届出方本年八月三十一日限リト可相心得

娼
妓
座
敷
貸
敷

○明治十二年七月二十五日甲百十六番布達 縣稅營業ノ儀ニ付今般甲百十四番ヲ以及布達候處娼妓并娼妓貸座敷營業ノ儀ハ素ヨリ地方稅ニ關係無之儀ニ付從前ノ通賦金徵收候

條爲念此旨布達候事

但鑑札料ノ儀ハ本年七月一日ヨリ徵收不致候事

○明治十二年十一月二十四日由百九十七番布達

甲百九拾六ヲ以藝妓自稼及貸座敷假規則相廢シ候ニ付娼妓并貸座敷取締規則別冊之通制定候條此旨布達候事

但從前之規則ハ此布達發行之當日ヨリ廢止ノ義ト可心得事

娼妓自稼規則

第一條

娼妓ハ他ニ生活ノ途ナク止ムヲ得サルモノニ限リ之ヲ許ス

ト雖モ貸座敷免許地ノ外ニ於テ營業スルヲ許サス

但他管下ノ者ハ管廳及警察署又ハ郡區役所戸長役場等ノ添翰ア

第二條

娼妓自稼ヲ爲サント欲スルモノハ事故ヲ詳記シ親屬連印ノ上戸長與印ヲ以テ所轄警察署へ願出ツヘシ證議之上免許鑑札下渡スヘシ

但身察檢査ノ上微毒ノ患アル歟又ハ体格不熟ノ者及ヒ微毒檢査

第二

百九十五

十三年甲
五十一番
ヲ以追加
十三年甲
百八十六番
ヲ以改
正

所未設ノ地方ハ滿十五歳以下ノ者ニハ之ヲ許サス
免許ヲ得テ授業設置ノ地方ニ於テ營業スル者ハ同所ニ就業スヘシ
第三條 營業税金ハ月ノ十五日前後ノ剩廢ヲ以テ全額ト半額トヲ區
分シ納税スルモノトス故ニ廢業或其情願ニヨリ期限アルモノ滿期
ノ節鑑札返納ヲ怠ル可ラス

但金澤町ハ鑑札發付ノ日ヨリ三日加賀國余澤町并越中國瀨波射ヲ除ク
水兩郡能登國鹿島羽咋兩郡越前國坂井郡ハ七日其餘ハ十日ヲ除
キ其新規願ノ上出稼スル者ハ右猶豫日數ノ外道程ニ應シ一日十
里計 二里以上一日ノ猶豫ヲ與ヘノ計算ヲ以テ相當日數ヲ除去シ
其翌日ヨリ營業スルモノトス

十三年甲
百八十九番
ヲ以追加

娼妓廢業又ハ移轉セント欲スル者ハ先ツ微毒検査所取締ニ申出檢
査ヲ受クヘシ罹毒ノ兆ナキモノハ之ヲ許ス
但微毒検査所設置無之ケ所ハ是限ニ非ス
第四條 甲地ニテ鑑札ヲ受タル者乙地ヘ移轉或ハ出稼ノ節ハ鑑札ノ

書換
加可願出且滿期或ハ退業ノ者鑑札返納スルハ其翌日ヨリ三日以
内ニ其地ヲ差立ツヘシ其他出稼ノ者原籍ニ戻リ還納スルハ右日限
ノ外其道程ニ應シ前條ノ計算ヲ以テ猶豫ヲ與フヘシ
但鑑札書換ノ上尙竊ニ甲地ニ於テ其業ヲ營ミ又ハ鑑札ノ書換ヲ
受ケスシテ乙地ニ出稼ヲ爲スヘカラス且三十日以内一時出稼ノ
者ハ假證ヲ申受ヘシ

何郡區何町村番地
族某何女トカ
娼妓 何某
年 齡
何年何月何日ヨリ何日間
何地出稼
年 月 日
郡區印

第五條 免許鑑札ヲ受ケタルモノハ月税金一圓毎月二十五日限り相納ムヘシ

但甲地ヨリ乙地へ出稼ノモノハ甲地ニ於テ収税スヘシ

第六條 免許鑑札ヲ受ケタルモノハ自宅ヨリ出稼スルモ又ハ貸座敷ニ寄留スルモ勝手タルヘシト雖モ自宅免許地外ニ係ルモノハ必ラス免許地ノ内へ同居又ハ寄留スヘシ

第七條 自宅へ客ヲ誘ヒ又ハ客ノ誘引タリヒ貸座敷ノ外へ宿泊スルヲ許サス

但旅行等ノ節ハ此限ニアラス

第八條 身體健康清潔ヲ注意シ微毒其他傳染病ト認ムルキハ速ニ醫ノ診斷ヲ受クヘシ病ヲ秘匿シ客ニ寄攝スル義ハ一切相成ラス

第九條 後日正業ニ轉スル妨ゲトナルヘキ大金ノ負債ヲナサハル様厚ク心掛クヘシ

第十條 正業ニ遷ラント欲シ或ハ他人ノ貸座敷へ轉移セントスルキ其主故ナク之ヲ拒ミ或ハ苛割ノ取扱ヲナスニ於テハ最寄警察本分署へ

十二年
甲五
十六番
以改正

訴出處分ヲ受クヘシ

第十一條 何事ニ依ラス客ノ所業不審ナルヲ見聞セハ速ニ座敷主へ密告スヘシ

第十二條 無鑑札ニテ營業スヘカラサルハ勿論鑑札ヲ客席へ持參セス及ヒ貸借スル等ノ所業アルヘカラス

但情ヲ知ツテ本條違反ノモノヲ寄留セシメ又ハ教令シテ此規則ヲ犯サシムルモノハ其教者令ヲ罰ス

第十三條 此規則ニ違背スルモノハ貳拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ
貸座敷取締規則

第一條 座貸敷營業ハ必ス免許地ニ限ルモノトス

第二條 貸座敷營業ヲ爲サント欲スルモノハ戸長與印ノ上本年甲八十一番布達ノ手續ヲ以テ願出ツヘシ評議ノ上免許鑑札下渡スヘシ

第三條 營業税並ハ月ノ十五日前後ノ剝廢ヲ以テ全額ト半額トヲ區分シ納税スルモノトス故ニ廢業或ハ情願ニヨリ期限アルモノ満

十三年
甲百八
十六番
以改正

期ノ節鑑札返納ヲ怠ルヘカラス

但金澤町ハ鑑札發付ノ日ヨリ三日加賀國金澤町并越中國礪波射

水而郡能登國鹿島羽咋兩郡越前國ノ内坂井郡ハ七日其ノ余ハ十日

ヲ除ク其滿期或ハ退業ノ者鑑札返納スルハ滿期ノ翌日ヨリ三日

以内ニ其地ヲ差立ツヘシ

第四條 免許鑑札ヲ受ケタルモノハ月税金二圓毎月二十五日限り相

納ムヘシ

第五條 免許鑑札ヲ受ケタルモノハ左ノ看板ヲ店頭ニ掲ケ夜中ハ點

燈ニ換ヘ認メ易キヲ要スベシ

長サ三尺

可照ルニ由ルニ

娼妓貸座敷

姓名

夜中點燈モ文字ハ看板雛形ノ通りタルベシ

第六條 明治五年十月被仰出候年季解放ノ御趣意彌堅ク遵守スベシ

第七條 娼妓ニ見世ヲ張ラセ又ハ通行人ニ遊興ヲ勸メ候儀ハ一切相

成ラス

第八條 娼妓ト契約ノ條件ハ所轄警察署ヘ申出テ認可ヲ受クヘシ

但此布達到着以前ニ取結ビタル契約書ハ更ニ所轄警察署ヘ差出

シ認可ヲ受クヘシ

第九條 娼妓他ノ貸座敷ヘ轉移シ或ハ廢業セシトスルハ私ノ契約等

ヲ以テ其自由ヲ妨クヘカラス

第十條 鑑札ヲ持タサル婦女ニ座敷ヲ貸シ娼妓ニ紛ハシキ所業致サス

ヘカラス

第十一條 娼妓ノ健康清潔ニ注意シ微毒其他傳染病ト認ムルハ速

カニ醫ノ診断ヲ受ケシムヘシ

第十二條 罪犯人々相書ニ類似ノ者又ハ金錢遺ヒ方等不審ノ者アル

ハ取逃サケル様注意致シ置キ速カニ最寄警察署又ハ巡行ノ巡

十三年
甲十二
番ヲ以
改正

查ニ密告スヘシ

第十三條 各地同業中取締一名或ハ二名ヲ置キ警察官ノ命令ヲ奉シ業體諸取締向及ヒ徽毒検査編方等ヲ爲サシムヘシ

第十四條 此規則ニ違背スルモノハ貸座敷免許鑑札取上ケ又ハ取上ケス三十圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

○明治十三年八月十一日甲百八十七番布達

今般甲百八十六番ヲ以テ娼妓并貸坐敷取締規則中改正布達候處自今右營業有限鑑札所持之者ハ追テ滿期ニ至ル迄ハ不及書換願出候條此旨布達候事

追加

○明治十三年八月三十一日甲百九十八番布達

擊劔營業者ノ議ニ付本年甲百八十八番ヲ以及布達置候次第モ有之候處擊劔指南ヲ業トスルモノハ遊藝師匠ノ業目中へ編入候條此旨布達候事

○明治十三年九月十日乙六十八番布達

賣藥廢業ノ節行商鑑札返納及受賣者姓名届出方ニ付明治十一年一月十一番ヲ以賣藥營業ノ者へ布達置候處自今賣藥禁止ノ節モ同様届出ノ議ニ相心得且ツ廢業或ハ禁止藥受賣約定及行商ノ者無之向ハ其趣届書ニ取添可指出此旨賣藥營業ノ者ニ布達候事

但賣藥讓替ノ節モ該藥受賣及行商者ノ有無書取添指出スヘシ

○明治十三年九月十日甲二百四番布達

明治十二年八月十八日甲百二十五番布達中第三條但書左ノ通更正候旨其筋ヨリ通知有之候條此旨布達候事

第二

第二

但此場合ニ於テハ北海道ニ於テ前納濟ノ税金ハ下戻シ請取証ヲ
取リ前納目錄檢印帳及入船ノ願末書等一同ニ送致スルモノトス
若更ニ可徴収金不足シテ前納ノ金額難下戻キハ税金徴収セズ右
事故ヲ前納目錄へ登記捺印シテ檢印帳ト共ニ船長へ下付候申

○第三戸籍

○明治六年三月十二日 香港

妾ハ是迄一季抱ノ下嬬ニ取扱居候得共自今其男子ノ家へ附籍其時
々戸長ニ可届出候事

但當時抱置候者ハ送入籍早々可取計且戸籍列次ハ妻ノ次タルヘ
キ事

○明治六年六月七日 達

各區戸長

先般公布相成候婦女子家督相續之義者當王死去跡嗣子無之女子ノ
ニテ已ムヲ得サル事情有之養子難致モノニ限り被差許義ニ候處
中ニハ誤解致シ右様情ノ有無ヲ不顧擅ニ養子離縁婦女子等相續ノ
儀及出願候向有之甚無謂事ニ候向後右等心得違無之様一々可備示
者也

○明治六年九月二十四日 四百六十四番 (八年百二十四番全年) 區長
通常諸願何届等是迄區戸長奥印致來候處離形ノ通運署可指出最區
長一見之上會所印ヲ表面ニ押シ進達可致事(中略)右之趣不洩様可

相達候事

雛形

年号月日

何國第何區何番組何町村何番屋敷
士族神官僧侶平民

何誰印

右副戸長

何誰印

右戸長

何誰印

長官宛

代印雛形

何國以下同上

何誰印

何國以下同上

何誰印

本人不在ノ例

該何々ニ付代印

以下畧之

○明治六年十月十日四百八十八番達

區長

別紙ノ通布達候條於區會所届書兩通取立正副長共封割印正ハ廳へ
指出副ハ當人へ下附ノ爲致後証可申此旨相達候事

○明治六年十月十日四百八十七番達

(七年六十四番)
布達見合

自今何人ヲ不論他管下勤學或ハ稼方等ノ爲ノ罷越候者縣廳へ可届
出此旨管内無洩布達候事

但士族并寺院ハ是迄ノ通可願出事

○明治六年十月二十四日五百十六番布達

温泉湯渡世之者一夜泊ノ者ト雖居住所姓名等圖糺帳記候義ハ勿論
三日以上滞在ノ者ハ其時々委曲届出可申尤旅籠屋渡世ノ者ニ限ラ
ス三日以上滞留ノ者有之節ハ都テ其區長ニ可届出事
右之趣心得違無之様管内無洩布達候事

○明治六年十月二十五日五百二十番布達

脱走入届方ノ義ニ付豫テ相達候處病氣其他ノ事故諸シ届方遷延ニ及ヒ候向間々在之不都合ノ事ニ候以來其都度々々速ニ可届出候万一等開打過五十日ヲ過届出ルニ於テハ届人勿論組合所役人之者迄可爲越度候事

右之趣管内無洩布達候事

○明治七年一月二十九日六十四番布達(十年丙八十二番) 區長

明治六年十月十日當縣四百八十七番ヲ以管内人民職員并ニ神官僧侶及ヒ士族戸主

除ノ他管下行往復届出候ハ、其都度々々縣廳へ可届出旨相達置候處證義之次第在之候條自今他管下行届往復共其區會所ニ於テ一ヶ月分取纏メ置翌月五日限リ無遺漏可指出此旨更ニ相達候事

○明治七年二月百十五番達(全年百三十二番) 區長

戸長ノ義ハ政年ノ根本至重之品ニ候處壬申年編成以來毎度誤脱等申書數有之令以精調ニ運兼候体ニ付今般論文相達候條尙又於區長可致壅說候且右ニ付更ニ別紙雛形之通調査申付候條一町村毎ニ取

調濟次第指出其當日ヨリ甲乙符考ノ通届式取極候條右ニ照準無遺漏取扱可申此旨相達候事

但戸籍調用紙ハ可下渡候條其町村擔當副戸長へ相渡候日分五日間ニ取調可指出候事

調査ノ手續

一 廳ヨリ相渡候系紙ヲ以於區會所一戸一枚充ニ致淨寫正副戸長へ相渡區副戸長戸毎ニ就キ戸籍法第二十則ニ倣ヒ現人ニ突合査定之節人名上頭ニ捺印シ而テ戸主ノ實印ヲ爲捺是テ戸長へ渡ス戸長覆番屋敷番號ノ下ニ捺印シ副區長ニ出ス副區長町村掲載ノ下ニ捺下シ假綴ヲ以區長ニ出ス區長區印ヲ記シテ是ノテ戸籍係へ致ス備考 何國何郡何町村

區印

何番屋敷○副區長ノ印

屬族○戸長ノ印

父何所何町屬族何某何男

○副戸長ノ印

何 某

何ノ何年何月何日生

○

妻

某

○

長男

何 某

生

惣テ如法

氏神何社

寺何所何字何寺

加除法

一出生死亡等惣テ身上異動在之節ハ甲号之通り短冊ヲ製シ届出シ
候テ區長其都度々々取來乙号ノ通(畧之)一區一册ノ通帳ヲ製シ攤
形ノ通記載シ擔富戸籍係へ直ニ指出シ本法ニ難記次第ハ先備考ニ
掲ケ計區ノ參考ニ可致候事

甲攤形 中折八ツ切

何月何日第何号

何々區

印

○何町村何番屋敷

○何某印

○副區長印

戸長印

副戸長印

○明治七年二月十一日百三十二番達

區長

本年百十五番ヲ以相達候戸籍記載方別紙攤形ノ通相心得女子ハ戸
主家族共姓名年齢ニ限リ朱書可致此旨相達候事

備考

某國某郡某町

○(印朱)

一番屋敷居住

土族

父某官某名亡

○(何ノ誰)

○(何ノ何年何月何日生)

妹

○(某)

備考

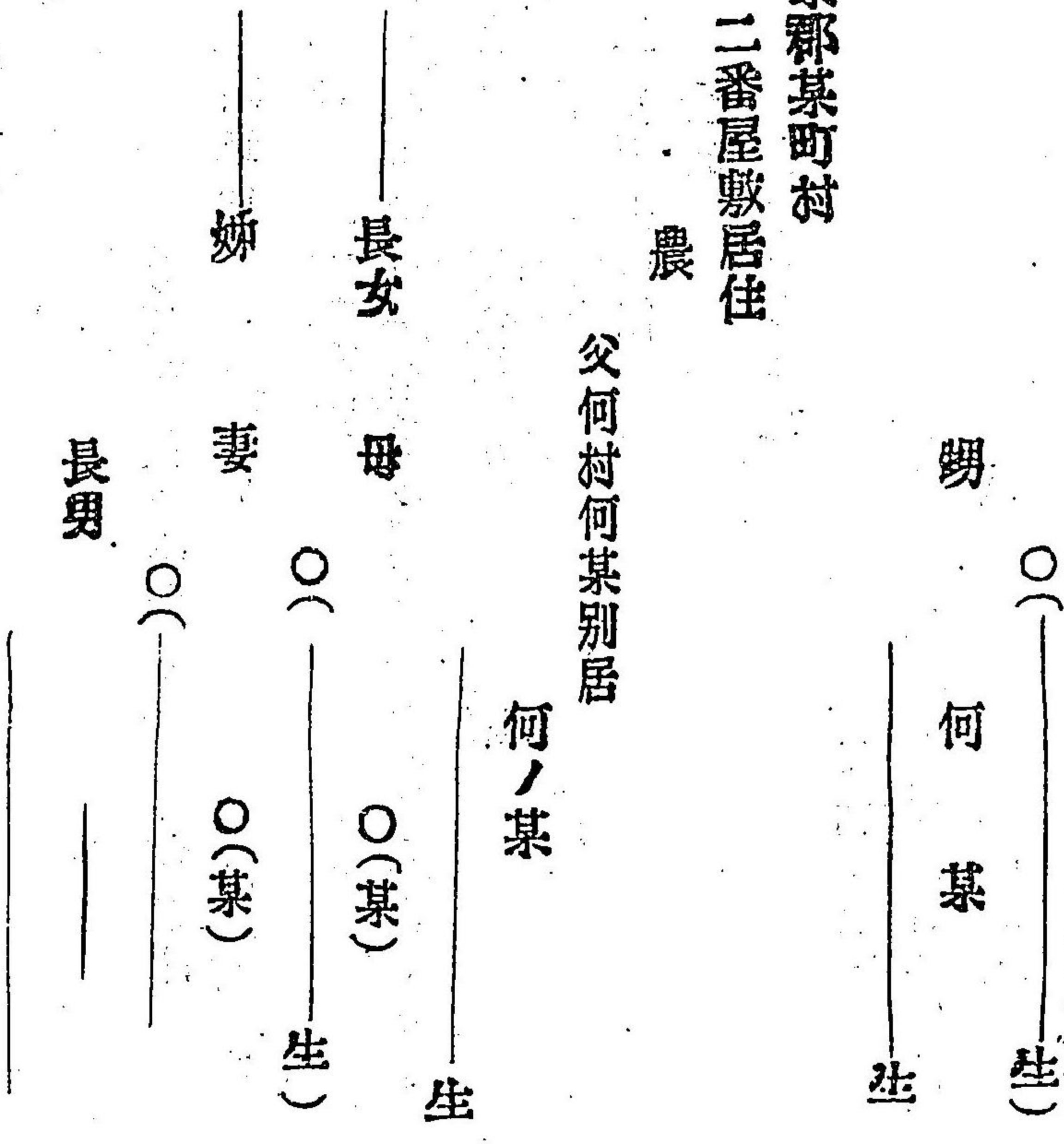
某國某郡某町村

二番屋敷居住

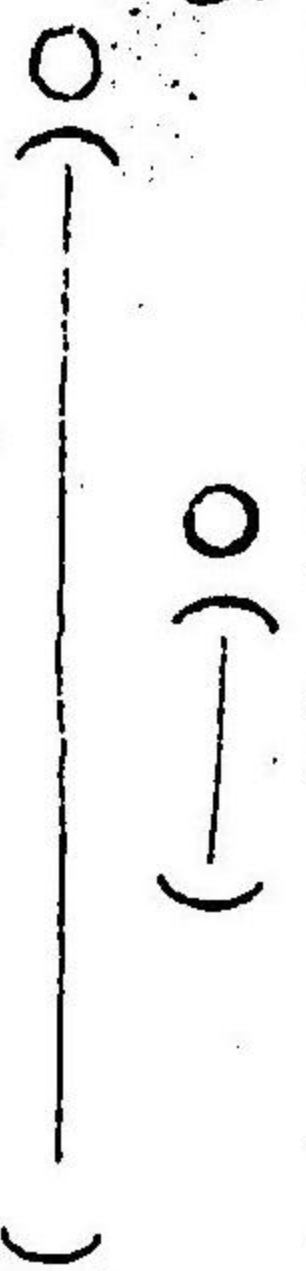
農

父何村何某別居

何ノ某



長女



○明治七年三月二日百五十番布達

土族等ノ中子弟ノ者はマテ父兄ト苗字ヲ異ニスル者有之候得共己來不相成候最從來右縁苗字ヲ異ニシ有之者ハ早々相廢シ父兄等戸主ノ苗字ニ可引直事

但本文引直シ方不及願加賀國ハ本月十五日限り能登國ハ同月二十日限り可届出事

土族平民共別家ノ砌更ニ他ノ苗字相設候儀不相成候事

但從前已ニ苗字ヲ異ニシ現今別家罷在向ハ不及引直候事

○明治七年四月十二日二百三番布達

土族ノ輩未タ養子無之分ハ病氣危篤ノ際養子取極可申出旨去ル申六月相達置候得共自今當王病死ノ後遺妻子及親戚懇談ノ上養子取極或ハ妻娘等へ相續願出候義不苦候此旨土族へ無洩布達候事但本文養子願等ノ義ハ遺妻子及親戚連印ヲ以可申出尤右願方當

主死去後五十日ヲ出可カラス候事

○明治七年四月二十二日二百七番布達

土族平民共身上之異動ニ關スル諸願何届書共都テ年齢記載可致候事

但本月何年何ヶ月ト可記載事

右之趣管内無洩布達候事

○明治七年六月十九日二百五十七番布達

方今神葬祭ニ改度向改宗寺管同様許可ヲ請求候得共壬申六月第百九十二号及本年一月第十三号公布之神官並教導職へ葬儀等依頼致度者ハ今自願請ニ不及其段可届出此旨管内無洩布達候事

○明治七年八月二十日三百三十三番布達

改宗寺替ノ義不歸依等ノ藤ヲ以及出願許可致來候得共教部省ヨリ達ノ次第モ在之候條爾後望ニ任セ取究可届出此旨管内無洩布達候事

但元寺院ヨリ離擅狀取請候ニハ不及候事

○明治七年十月五日庶務課達

區長

土族平民他管ト往復届並僕婢雇入等届詮議之趣有之爾來ハ甲号雛形ニ照準シ其都度爲届出本廳へ進達方手續之義ハ左之通相心得無洩其都度可及進達此旨相達候事

進達方手續

一土族平民其他管下往復届及僕婢雇入並暇遣届甲号之通各人民ヨリ届出シ候テ區長其都度々々取來乙号(畧之)之通り一區一册充通帳ヲ製シ雛形之通り記載戸籍掛へ直ニ指出シ如圖請取印ヲ受置ク

○印朱

用紙中ハハツ切
發足届ノ節割印

住所族籍

何 某印 生

○何号

一區
發足届
印

正副戸長ノ内印○住所族籍

留守中代理 何 某印

七年十月二十九日
以正形
改以正形

但何府下何所へ何年何月頃迄商用遊歴トシテ何年何月何日發足

○何号

戸主ヨリ續柄ヲ書ス

長男トカ 何 某

一歸宅届

區印

◎住所族籍

何某◎

生

但何府下何所へ商用遊歴トシテ罷越居候處何年何月何日歸宅

○明治七年十月九日三百六十七番布達中

第一項

一士族ノ輩他管下遊歴等自今願ニ不及往復共其都度可届出尤士族
平民共職務有之面々ハ其筋ノ請允許往復ノ都度區長へ可及按内事
但東京行ノ節ハ着京退京共同所當縣出張所へ可及届事

○明治七年十月九日三百六十七番布達中

第二項

一平民家名取疊同再興及附籍復籍ノ儀爾來願ニ不及親戚連印ヲ以

テ其段區會所へ可届出事

但士族ノ輩ハ是迄ノ通り可及出願事

○明治七年十月九日三百七十四番布達

士族平民共別家願之儀爾來ハ別家スルノケ所詳細記載シ且都合ニ
ヨリ親元等ニ直同居之分ハ其目由巨細書認可及出願此旨管内無洩
布達候事

○明治七年十一月四日四百六番布達

〔八年百七十四番〕
布達見合

當縣下戸籍編成ニ付平民職分之儀ハ農工商ヲ除クノ外某職某渡世
等之各目ヲ混シ惣テ雜業ト可記載管之處未タ承知無之者モ有之哉
ニ相聞へ候ニ付爲念此旨管内無洩布達候事

○明治七年十二月十日乾四百四十八番達

區長

管下人民脱走行衛不知者又ハ立歸之者其都度届出候得共詮議之趣
在之候ニ付以來五十日以内ハ更ニ下款へ五十日以外ニ及者ハ上款
へ追加致候且六ヶ月毎模様届ハ今後區會所ニテ取纏メ置二年以外
不立歸者并三十六ヶ月ヲ踰へ復歸セサル者マテ其都度無遺漏可出

第三

二百十六

届義等可相心得此旨相達候事

○明治八年五月三日百二十番布達

庚午九月平民苗字被指許各自具家系ニ基キ夫々苗字相設候處中ニハ家系ヲ誤認シ或ハ戸主不在中代理人等ノ取計ヒヲ以テ不當ノ苗字ヲ設候者モ有之旨ニテ往々改苗字ノ義出願ノ者モ有之候ニ付本年第廿二号公布ニ依リ其筋ヘ伺置候處今般指令ノ次第モ有之候條篇ト取調右等誤認ノ者ハ來六月三十日限り改苗ノ義可願出若シ右限月相過候テハ一切採用不致候此旨平民ヘ布達候事

○明治八年五月七日乾二百三十八番達

區長

本年五十号ヲ以テ各地寄留ノ者諸願届方等ノ儀云々公布相成候ニ付明治六年當縣四百六十四番布達雛形ニ照準シ各自寄留地ノ區副戸長連署可指出此旨管内人ヘ可致布達候事

但寄留人ノ内職務在之者ト雖モ身上ニ關スル事件ハ本文ノ通可相心得事

○明治八年五月十二日百三十三番布達

士族平民戸主脱走セシ者二年ヲ經サル内ハ家各相續不相成候且脱走者子弟等無之者ハ親類集議區會所ヘ届之上遺留財ヲ管守シ二年ヲ經過スルニ於テハ相續人願出不苦候此旨管内布達候事

○明治八年五月十二日百二十四番布達

明治六年四百六十四番ヲ以テ通常諸願伺届等正副戸長連署ノ儀云々布達致直候處更ニ左ノ一條增加候條此旨管内布達候事

一 惣テ願伺届書類數名連署ノ分ハ各自居住スル町村擔當之正副戸長連印ノ儀ハ勿論ニ候得共差違候事件ハ其品ニ寄り寄宿地ノ正副戸長連印ニテ差出不苦候事

○明治八年五月二十七日乾三百番達

區長

夫婦之際又ハ養子女事故在之離縁之節原籍ヘ復候儀ハ勿論ニ候處中ニハ復籍ヲ不望旨等申立別ニ一戸ヲ設又ハ親類等之内ヘ附籍致度旨等願出候者モ在之候ヘモ自今ハ一旦原籍ヘ復候上爲願出可申此旨取扱方爲心得相達候事
但原籍退轉ノ者ハ此限ニアラス

○明治八年六月三十日百五十五番布達
孀婦再嫁之者戸籍記載方前嫁之名稱ハ不及記載生籍ヲ以可記載此
旨管内布達候事

○明治八年八月二日百三十四番布達
士旅平民共幼少之子弟別家出願ノ節ハ後見人何某ハ依頼シ營業無
差支趣調込親族且向後後見ニ可相立者連署ヲ以可願出此旨管内布
達候事

○明治八年八月廿五日百七十三番布達
當縣下農商等之内戸主幼年ニシテ家事難治或ハ營業方指支情實無
餘義向ハ其母ヘ夫ヲ迎ヘ戸主之後見或ハ戸主ヲ以再夫之養子指許
置候處自今戸主幼年之者ニハ後見ヲ相立母ヘ後夫ヲ迎ヘ候儀不相
成候條此旨管内布達候事

○明治八年九月二日百七十四番布達
當縣下戸籍記載方之儀ニ付昨七年四百六番ヲ以及布達置候次第モ
有之候得共本年太政官第四十四号御布告之趣有之候ニ付自今戸籍

肩書ハ平民ト記シ名面上ハ其職業ヲ記載シ可申此旨管内布達候事

但士族ト雖モ農工商等ヲ營ム者名面上ハ其職業ヲ記載可致事

○明治八年九月十三日乾六百四十一番御達
加賀國第二十二區長
僧侶佐渡ヘ養子云々ノ儀ニ付本年三月廿日伺ヘ追テ何分ノ可及達
旨及指令置候處今般其節ヨリ一寺住職ノ俸他家相續ノ上商業ヲ營
ニ候等本寺法類觸頭等ニ於テ異議無之旨證明候上ハ聞届不苦旨指
令有之候條住職ノ子弟輩教導職試補以上ノ輩士民ノ内ヘ養子ニ罷
越僧業相營候條ニ相續ノ義不指支儀ト可相心得此旨相達候事

○明治八年十月三十一日乾七百二十四番
區長

區内戸口ノ繁殖スルハ可賀事ニシテ凋衰ハ可歎事ニ候就テハ日々
別家願ノ出ル實ニ國家ノ大慶事ト存候處尋テ家名取疊ヲ出願スル
モ亦陸續際限ヲ知ラス元ヨリ榮枯ハ世間ノ常ニハ候ヘモ初別家一
戸ヲ成テノ節目的ノ輕忽ナルヨリシテ終ニ一家ヲ維持成シ難キニ
至シモ又アルベシ近來別家願ヲ聞スルニ別家ノ土直ニ本家ヘ同居
スル等ノ向モ不勘調査上不明了ノ釐モ候條爾後別家願出候節ハ別

但書八年
乾七百六
十九番ヲ
以テ追加

家スヘキノ事由分與スヘキノ財産員數暨將來營業ノ目的取調確手
自營ノ見留有之候ハ、夫々調書相添可上請若シ夫等ノ邊未熟ニ候
ハ、急度獨立ノ基礎相立候迄見合候様加説諭可申此旨相達候事
但家名再興願ノ儀モ同様ノ手續ニ可取計
○明治八年十一月十九日二百十三番布達
華士族平民トモ子孫無之者家出後親戚集議戸長ヘ届ノ上遺留財産
ヲ管王シ二年ヲ經過スルニ於テハ相續人ヲ定メ不苦候條此旨管内
布達候事

○明治八年十一月十九日二百十三番布達
華士族平民トモ子孫無之者家出後親戚集議戸長ヘ届ノ上遺留財産
ヲ管王シ二年ヲ經過スルニ於テハ相續人ヲ定メ不苦候條此旨管内
布達候事

○明治八年十一月二十日二百十六番布達
平民當主死去嗣子無之致養子候者ハ尊屬并遺妻親戚熟議ノ上早々
養子取極可申替ニ候得共若シ無據義モ候ハ、五十日以内取極該區
會所ヘ可申出此旨管内布達候事

○明治八年十二月十九日乾七百七十九番布達
僧尼ノ輩定籍ノ義ニ付昨七年二百九十八番及ヒ本年乾七百五十五
番布達ニ照準シ未定籍ノ者ハ當年中本籍相定可届出此旨管内僧尼
ヘ布達候事

○明治九年一月二十七日丙十番達

區長

平民長男別家又ハ他家ヘ養子ニ指遣候儀ハ不相成候ヘ凡無據事情
有之節ハ養實親戚連印ヲ以事由詳細相認メ可爲願出候
一婦女ニシテ子アル者後夫ヲ迎候儀不相成若シ夫ヲ迎ヘサノハ其家
保存シ難キ不得止事實有之向ハ其事由詳細相認本人及ヒ親戚ノ願
書相添可願出且今後ノ家督ハ必遺子ニ繼承可爲致旨右後夫ヨリ妻
又ハ親族ヘ對シ契約書爲差出親屬或ハ戸長記印シ是亦願書ニ取添
可願出候

但私生ハ此限ニアラス

○明治九年二月十日庚十一番達

幼少者相續ノ節新戸籍ニ後見人記載ノ上ハ別段後見人名届出不及
且後見替ノ節ハ前段後見人連印ヲ以戸籍異動短冊ノニ爲届出可申

九年丙六
十二番ヲ
以改正
一十年丙
百六十二
番見合フ
ヘシ

此旨爲心得相達候事

○明治九年四月十二日丙五十二番達

區長

一家不能保存戸主ノ權利ヲ捨テ親族等他ノ附籍ニ相成候ヘル家名ハ存在シ事由戸籍ニ登記シ置儀ニ候處是迄願書目安ニ家名取疊ニ附籍願ト掲出候慣習ニ候右ハ名實不相添儀ニ付自今一戸取疊ニ附籍願ト爲認可申此旨相達候事

○明治九年四月十九日丙五十六番達

金澤町區長

婦女苗字ノ義ニ付明治八年十月二十日付ヲ以元惣區長石川昌三郎ヨリノ伺其筋ヘ伺中ニ付追テ何分ノ可及指令旨及指令置候處婦女人ニ嫁スルモ仍ホ所生ノ氏ヲ用フ可ク但夫ノ家ヲ相續シタル上ハ夫家ノ氏ヲ稱スヘキ旨其筋ヨリ指令相成候條可得其意此旨相達候事

○明治九年四月廿四日甲五十六番布達

父祖ノ妾子孫ノ婦及ヒ兄弟并養兄弟ノ妻妾タリシ者其夫ニ離婚セラル、上ハ義既ニ絶ユルト雖モ右前夫ノ祖父子孫兄弟姪及ヒ養兄弟ニ該ル者ト結婚スル儀ハ不相成候條此旨管内布達候事

○明治九年五月八日丙六十三番達

區長

諸願伺届等都テ戸主ヨリ可差出ハ勿論ニ候處近來家族ノ者其事ヲ專ニシ戸主ノ如ク申立候向モ徃々有之其權限ヲ失シ不都合ニ候條爾來右等ノ向無之様區戸長ニ於テモ屹度注意可致此旨相達候事
但職務アル者職務ニ關スル事件及ヒ寄留ノ者或ハ成規等アツテ該人ヨリ可申立分ハ此限ニ非ス

○明治九年五月十日丙六十五番達

加賀國區長

從來戸籍ノ異動ニ關スル諸願免許ノ指令ヘ異動ノ儀可届出旨但書ヲ加ヘ來候處自今但書相省キ候條渾テ異動ニ關スル向ハ假令瑣末ノ事タリモ其都度無遺漏可爲届出此旨相達候事

○明治九年五月廿二日丙六十九番達

越中國區長

從前戸籍異動ノ儀既ニ廳許ヲ經タル分ニ限り再ヒ不届出仕來ニ有之候處自今ハ都テ其都度無遺漏可届出義ト可相心得此旨相達候事
○明治九年五月十五日甲六十七番布達
別家ヲ願ヒ家屋ヲ新築セント欲スルモノハ該願免許ノ後地所ノ義

ハ更ニ可願立義ト可相心得此旨管内布達候事但從來ノ宅地ニ於テ新築スルモノハ別段願ニ不及候事

○明治九年六月二十八日乙三十八番布達

僧尼編籍ノ件昨八年^{十一月}内務省乙第百五十一号達書ニ據リ各自本籍相定候上ハ住職中其寺院へ居住ノ儀總テ從前ノ通可相心得答ノ旨教部省ヨリ達相成候條此旨寺院へ布達候事

○明治九年七月四日丙九十七番達 加能兩國區長

出生死亡等都テ身上異動在之節ハ短冊ヲ以可届出旨出ル七年二月雛形ヲ以相達置候ニ就テハ其都度可届出ハ勿論ニ候處中ニハ届ノ月日殆ト遅延届出候向モ有之不都合ノ事ニ候條爾來其身異動ノ當日ヨリ日數十五日間ノ内急度可届出儀ト可相心得此旨更ニ相達候事

○明治九年八月二日丙百二十六番達 越中國區長

人民別家願ノ義ニ付昨八年乾七百二十四番別紙之通り加能能登岡國へ相達置候ニ付越中國ニ於テモ同様可取扱此旨相達候事

(別紙畧之)

○明治九年八月七日甲九十三番布達

從來兩氏神ノ向往々有之候處自今甲乙兩社ニ涉リ奉祀ノ儀ハ不苦候得共氏子ノ名稱ハ一社ニ限り候儀ト可相心得此旨管内布達候事但兩氏神ノ向ハ一社ニ取極可届出事

○明治九年八月七日甲九十四番布達 (甲百十番見合スヘシ)

妻ヨリ家督讓受候者妻ノ父母ハ存亡ニ不拘養父母ト稱シ及ヒ忌服ノ儀モ養父母ニ可准候

弟タル者兄ノ養子ト相成候儀ニ付即令其筋へ伺中ニ付追テ何分ノ儀相達候迄ハ養子ト相成候義不相成候但弟へ家督爲致候義ハ不苦候得共相續人ト稱シ養子ト稱スヘカラス
右之趣管内布達候事

○明治九年九月二日丙百六十番達 加能兩國區長

縁組及ヒ離別ノ儀ハ區方條例下款取扱ニ相成居候中寡婦離縁ノ義ハ亡夫ノ遺言ニ原ツキ届出ノ節遺言証人連署ノ義ハ勿論以來寡

婦モ連署届出候上可取扱且右ノ外下款取扱ノ中尊屬等ニ涉リ候届等ハ都テ尊屬ノ者ノ連署ヲ可要義ト可相心得此旨相達候事

○明治九年九月二日丙百六十一番達

越中國區長

區會所限取扱候届等ノ内尊屬ニ涉リ候届等ハ都テ尊屬ノ連署ヲ可要譬ハ亡夫ノ遺言ニ基キ寡婦離縁ノ如キハ遺言証人ハ勿論寡婦モ連署届出候義ト可相心得此旨相達候事

○明治九年九月十二日甲百十番布達

本年甲九十四番布達第一條妻ヨリ家督讓リ受云々ノ上ヘ「父没シ男子無之女子ニテ相續ノ」數字ヲ増加シ及ヒ第二條弟タル者兄ノ養子ト相成候議不相成旨其筋ヨリ指令有之候ニ付右各義不相成候條此旨更ニ管内布達候事

○明治九年九月十八日丙百九十番達

越中國區長

本年五月丙八十番ヲ以テ戸籍調整ノ儀相達候書式雛形中更ニ別紙ノ通増加候條此旨可相心得候事

備考

某國某郡某町村○

○(——)印朱

何番屋敷居住○

士族又ハ平民

夫ヨリ家督讓受ル例父某亡養女但家女ノ書式大某亡

○某國某所族屬モ某亡養女職業○(何 某)○

又

實父某國某郡——養男

妻某ヨリ家督讓受

妻ヨリ家督讓受ノ例職業 何 某○

又

家督ノ約アル養子ノ例 長男 何 某

實某國某郡某町村族屬何某養男

婚養子ノ例 長男

何ノ何年何月
長女ハ婚養子
嗣子トスル事由

何年何月嗣
子トスルノ
事由

第三

二百廿八

實某縣某國

又

次女等へ或ハ婿養子嗣

養子

子ニアラサルモノ、例

實

生

又

備考

某國某郡某町○

何番屋敷○

何所何番地 居住同居

何某持地○

○明治九年十一月十一日甲百三十番布達

(十年甲三十二番ヲ以但書中追加)

自今土民トモ滿二十歲ニ至ラサル戸主ヨリノ諸願伺届ハ本人名印ニ不及候條其後見者ヨリ某後見人何能ト相記シ調印ノ上差出候儀

ト相心得可申此旨管内布達候事

但二十歲未滿ニシテ未後見人不相定向ハ早々取極親屬連署ヲ以住所姓名等詳細届出ヘク「且滿十五歲以上親戚ノ見込ヲ以テ後見ヲ免シ候儀ハ不苦候條其時々届出ヘシ」

○明治十年一月廿六日乙十八番布達

土族ノ輩家督相續出願ノ節是迄辭令ヲ以相達候仕來ニ候處自今右辭令ハ相廢止願書へ許可ノ有無及前令候儀ニ改正候條此旨越中能登加賀三ヶ國居住ノ土族へ布達候事

○明治十年一月廿九日乙二十番布達

土族之輩死去跡ハ息中五十日ヲ過家督相續可申付旨壬申六月達置候得共自今相續人現實之愚明ヲ期シ家督相續之儀可及許可管ニ候條其心得ヲ以可及出願此旨加賀國居住之土族ニ布達候事

但死後養子取極候儀ハ五十日ヲ過スヘカラサル儀ト可相心得事

○明治十年二月二十二日乙三十一番布達
是迄家督相續ノ上第一大區ヨリ第十三區迄ハ各簿指出シ越前國

七郡ニテハ明細籍指出候規則ニ相成居候處自今ハ別段ノ達無之上
ハ不及指出候此旨土族へ布達候事

○明治十年二月二十七日丙辰八十二番 第一大區ヨリ 區 戸長
第十三大區迄

人民他管下發歸ノ節届短册 儀自今懸臆へ不及差出ニ區務所ニ於
テ遺漏ナク取調置可申此旨相達候事

○明治十年四月十四日甲辰四十三番布達

戸主幼年ナル片婦人ニテ後見人タルノ種ヲ有スル者ハ其戸主ノ母
並戸主タル婦人ノ外ハ不相成儀ト可相心得此旨管内布達候事

○明治十年六月四日丙辰百四十五番達 自 第一大區 戸長
至十三大區

未ノ年ノ者後見人ノ義ニ付昨九年十一月甲辰三十番ヲ以管内布達
及ヒ候ニ付爾來右布達ニ因リ後見人取極メ候者ニ限リ届書具時々
爲指出來候得共以來昨九年乙辰八十五番達區方取扱規則第十七條ニ
因リ可取扱此旨相達候事

○明治十年七月十二日丙辰百六十二番達 第六大區ヨリ 區 戸長
第十三大區迄

婦女ニシテ子アル者不得止事實有之後夫ヲ迎度旨願出ノ節後來前
夫ノ遺子へ家督繼承可爲致旨右後夫ヨリ妻又ハ親屬へ對シ候契約
書取添可差出旨昨九年丙辰六十二番ヲ以相達置候處自今右契約ヲ爲
スト爲サ、ルトハ双方ノ適議ニ任セ候條契約書ノ義ハ取添ルニ不
及候此旨相達候事

○明治十一年三月二日丙辰四十二番達 區 戸長

人ノ妻タル者幼年又ハ他ノ事故ニテ婚議未整ノ者ハ戸籍上縁女ト
記載致スヘク此旨相達候事

○明治十一年三月十三日丙辰五十七番達 區 戸長

脱走又ハ行簡不分者及ヒ其所在相知レ或ハ復歸スル節ハニ事實ア
ル者ノ外へ自今區務所ニテ取扱戸籍上へ事中詳記致シ置ヘク此旨
相達候事

○明治十一年三月二十一日甲辰四十五番布達

轉宗改式ノ節承認書授受ノ儀廢止相成候條渾テ由六月第九十
二号七年二月第拾二號公布ノ通相心得自今轉宗改式ノ者ハ是迄葬

祭受料ノ者へ及通知旨可届出此旨管内布達候事

但同宗派ニテ甲乙相轉候モ同様タルヘシ

○明治十一年六月十日丙百九番達

區 戸 長

曾テ奏任以上ノ官ニ被任現今非役ノ者死去候節ハ其時々添書ヲ以可届出旨其筋ヨリ達相成候條此旨相達候事

○明治十一年六月十三日丙百十番達

區 戸 長

家督相續願并送籍願中自今金祿高不及記載候條此旨相達候事

○明治十一年七月十八日甲百二番布達

宿屋營業ノ者止宿人届出方ノ義ハ豫テ相津留候通ニ候處右營業外ノ者ニ至テハ兎角不届出向モ有之取締上不都合ニ付宿屋營業外ノ者ト雖モ三日已上止宿ノ者ハ其都度則チ四日所轄警察署へ可届出尤時宜ニ依リ營業内外ヲ論セス巡査差向止宿人檢査候義モ可有之若シ密カニ止宿爲致候様ノ義有之候ハハ相當處分ニ可及候條此旨管内布達候事

但届出方ノ義警察署遠隔ノ地ハ本年甲六十九番布達ノ通可相心

得事

○明治十一年七月八日丙百二十八番達

區 戸 長

今般甲百三番ヲ以テ三日以上止宿人届出方ノ儀布達候ニ付テハ人民不慣ノ邊ヨリ心得違ノ者在之犯則ニ陪リ候テハ隣然ノ至リニ付其町村副戸長等ヨリ特ニ示諭注意ヲ加ヘ届方等聞ノ者無之様可致此旨相達候事

○明治十二年一月二十日丙十三番達中

郡區役所

第二項

一 神葬祭並改宗寺授ノ義ハ各自ノ信仰ニ任セ候義ニ候得共戸長ニ於テ其時々無遺漏戸籍へ加除シ置カシムヘシ

第三項

一 平民養子女ノ義ハ戸長へ届置クヘキ成規ナリト雖モ其長男ニ在テハ養子別家トモ又子アル婦女子夫ヲ迎フル等ハ非常ニ係ルヲ以情由ヲ詳カニセル願書ヲ出サセ無據モノハ郡區長ニテ許可スヘシ

第四項

一土族平民トモ他管下往復ハ戸長ニテ無遺漏取調置カシムヘシ
○明治十二年二月三日甲十七番布達

今般郡區制定候ニ付テハ從來ノ屋敷番号ヲ廢シ總テ住居地所ノ番号則地券何町村幾番地ト稱シ戸籍調製可致此旨布達候事
但調方ノ義ハ郡區長ヨリ別段相達スヘシ

○明治十二年二月三日丙五十四番達 郡區役所

今般戸籍調替ノ義ニ付甲十七番ノ通布達候ニ付テハ各町村戸長ヲシテ無遺漏爲取調可申手續書相添此旨相達候事

戸籍調査手續

一戸籍調査方ノ義ハ戸籍法並爾後諸區へ達置候本縣適宜ノ規則ニ從ヒ尙逐條示ス處ニ據ルヘシ

一是迄用來ル町村屋敷番号ハ總テ廢止シ其居住地所番号則地券面ニ記シタル番号ヲ用ヒ何町村何番地ト稱スヘシ

一番号ノ地ニ數戸アルモノハ何番地ノ何号ト數字ヲ以テ之ヲ願ツヘシ

一番号ノ地所或ハ兩三ニ分裂シタル地ニ數戸アルモノハ某番地甲或ハ乙ノ何号ト記スヘシ

一人ニテ數個ノ地所ヲ合併シ居住スルモノハ其地所ノ各名ヲ列記シ通常ハ最首ノ番号ヲ稱スヘシ

一從來甲ノ町村地ニ居住シ乙ノ村名番号ヲ附シタル如キハ總テ其居住地ノ籍ニ収ムヘシ

一人ニテ甲乙ノ町村地相隣リタル地ヲ合併シテ居住スルモノハ其居住者ノ望ニ任セ甲又ハ乙ノ戸籍ニ収ムヘシ

但地所列記スルハ第五條ノ通り

一戸籍ノ改正ハ戸長ヲ定メタル上ハ直ニ取纏ムヘシ

一前條々ノ如ク改正スルキハ譬ハ射水郡小杉新町ノ如キ其地所ハ戸破村並小杉三ヶ村ノ地所ナルカ故小杉新町ノ名ハ戸籍上自ラ消滅ニ屬スト雖モ其通稱驛名等ニ用フルハ鳳至郡ノ大町川島兩村ヲ合シテ常ニ穴水ト稱シ穴水驛ト唱フルカ如ク尙存スルモノト心得ヘシ

一既ニ改正セルモノハ其時々門標書管セシムヘシ

雛形 丈々八寸計水札

某 郡 某 町 何番地(士族)(平民)

(本籍ノ者) 何 某

某 郡 某 町 何番地(士族)(平民)

(他ニ居住シテ一戸ヲ所有スル者) 何 某

持家

(士族)(平民)

借家 何 某

(士族)(平民)

同居 何 某

某 郡 某 町 何番地

某 府 (士族) (平民)

(他管ヨリ寄留シテ一戸ヲナス者) 何 某

某 府 (士族) (平民)

(全同居或ハ借家スル者) 寄留 何 某

一戸籍改正ノ期ハ本年三月中限タルヘク改正濟ノ節ハ郡區長ヨリ届出スヘシ

○明治十二年二月二十四日乙十八番布達

士族家督相續養子貫籍管ノ義是迄出願シ來候處自今願出ニ不及直

ニ戸長へ届出ヘシ此旨士族へ布達候事

但廢嫡ニ属スル分ハ本文ノ限ニアラス

○明治十二年三月八日告六番諭達

開拓使管下へ出稼致シ各所ノ漁場ニ雇ハレ營業ヲナスモノ各縣下

ヨリ毎年多人数入込候處中ニハ不正ノ所業ヲナスモノ有之ニ付

同使ニ於テ取締方法相立候間同地へ出稼ノ者ハ可成丈々身元憚ナ

ル証據トナルヘキモノヲ携帶候様同使ヨリ縣令ノ趣有之候條若シ
証據モノニ指支目的營業ニ困難ヲ來シ候様ノ次第有之候テハ遠隔
ノ地ニ在テ不便ノ至ニ候條今后同地出稼ノモノハ戸長等ヨリ証據
トナルヘキ書物取受携帶可致此旨告諭候事

○明治十二年三月八日丙百三番達

郡區役所

今般告六番ヲ以開拓使管下ヘ出稼ノ者証據モノ携帶ノ義諭達候ニ
付自今出稼届出候節ハ本人ノ姓名住所并出稼ノ年月日記載セル戸
長等ノ書面ニテ取申ト身元ノ保証トナルヘキモノ携帶候様注意可致
旨戸長ヘ可相達候事

○明治十二年四月二十四日甲五十九番布達

養父兄又ハ養姉ノ名稱ヲ以他人ヲ賞罰候義不相成候條此旨布達候
事

○明治十二年十二月二十七日丙三百二十五番達

郡區役所

改姓名ノ許可ヲ與ヘ候官吏軍官吏ノ向ハ直ニ本人ヨリ届出候様可
相達此旨相達候事

○明治十三年四月十七日丙六十五番達

郡區役所

華土族當主死亡後相續期限之義本年太政官第三号公布相成候ニ付
右公布發令前ヨリ事故有之干令相續人相定サル向者其前既ニ經過
シタル日數ハ之ヲ算入セス右公布發令當日ヨリ六十日ヲ除去シ更
ニ起算シ六ヶ月ノ猶豫ヲ與ヘ尙相續人相定サルモノハ族稱廢絶ト
可相心得旨其向ヘ示達可致此旨相達候事

○明治十三年四月二十一日告四番諭達

途上往々迷子ノアルハ父母ノ注意等關ニ生スルアリ或ハ幼兒ノ遊
戯ニ乘シ遠ク其家ヲ離レ父母ノ意表ニ出ツルモノアリ故ニ假令迷
子トナルモ速ニ其子ヲ得ルノ方法ヲ設ケサルヘカラス幼兒途上ニ
彷徨スルニ至リ巡查及ヒ戸長等ニテ幼兒ニ住所姓名ヲ尋ルモ未ダ
其辨別ナキモアリ常ニハ之ヲ知得シアルモ一時狼狽シテ之ヲ忘却
シ或ハ見慣レサル大人ノ尋問ニ恐怖シテ之ニ答フル可能ハサルハ
迷子ノ常情ナリ此場合ニ於テ巡查及ヒ戸長等ニハ迷子ヲ其家ニ送
ルニ由テク徒ニ父兄ノ探問シ來ルヲ待リテ斯ク見テシテ其困苦ヲ

受ケシメ其父母親戚モ亦憂慮置ク處ナキニ至ルハ平常其豫備ヲ爲サ、ルノ致ス處ナリ依テハ今後男女兒トモ満七歳ニ至ルマテ左ノ雛形ノ如ク木牘或ハ銅札ノ類ヲ製シ必ス付帶致ラスヘシ此旨告諭候事
 但人家幅濶ノ市街或ハ神事祭禮等ノ節迷子トナルモノ最モ多キニヨリ祭禮等見物ノ爲メ不案内ノ地ニ出ツルモノ及ヒ市街居住者ノ者ハ別ニ注意致スヘシ

何都區何町	何番地	何姓名
何郡	何番地	何姓名
何郡	何番地	何姓名
何郡	何番地	何姓名

○何番地 士族 平民
 某 幾男 幾女
 但嗜好及ヒ記載方ハ隨意タルヘシ
 ○参考

○明治十二年二月十三日丙五番達中 郡區役所

- 一 別家願ノ事
 是ノハ一家維持ノ目途アリテ徴兵ノ諸規則等趣テ法律ニ觸レサル者ハ許可スヘシ若幼若ニシテ別家セントスル者ハ將來後見ニ立ツヘキ者ノ連署ヲ要スベシ
- 一 平民家名再興ノ事
 是ノハ別家ニ準スル再興スルノ緣由ヲ明記セシムヘシ
- 一 附籍復籍ノ事
 是レハ一家取疊ニ他へ附籍セントスル者ハ一家維持シカタク事田ヲ取調又養子女或ハ妻離縁ノ際他へ附籍セントスル者ハ其實家へ復籍シカタク理由アルモノニ限リ許可スヘシ且別家取疊ニ復籍スル者モ此手續ニ全シ
- 一 但願書ハ親戚及引受ル者ノ連署ヲ要ス
- 一 戸籍引直ノ事
 是レハ其錯誤シタル原因ヲ取調ヘ他ニ障礙ナキモノハ親族及其事

十二年丙
四十一番
ヲ以改正

ニ關係アルモノ、連署セル願書ヲ以許可スヘシ尤脫漏等ノ者加籍
ヲ願出ル如キモ都テ本條ニヨル

一 嗣子相續人之事

是レハ男女子無之者弟等ヲ以相續入トスルハ届トス或ハ實子アル
者養子ヲ以テ相續人トスル如キハ現實極貧或ハ老病トニテ實子孫
アリト雖モ幼少ナルカ又ハ後見スヘキ者モ無之歟ノ場合ニテ親族
協議ヲ以願出不得止事情ニ係ル者ハ土族タリモ許可スルヲ例トス

一 改姓名ノ事

是レハ同苗同名或ハ先代ノ名ヲ襲フサレハ商業等差支ユルトカ又
ハ教導職試補以上ニシテ法名ニ改メ度トカ不得止モノニ限り許可
スヘシ又改姓ハ先代ヨリノ由緒明白ニシテ復姓願出ツルモノニ限
ル

一 妻妾縁組及離縁ノ事

是レハ假令ハ娯養子ノ者其家女子離縁セントスル者ハ其妻疾病等
ニテ家事ヲナス能ハサル等親戚ノ保証ヲ以テ願出テ事實無余議モ

ノニ限り許可スヘシ

一 氏神替ノ事

是レハ願意不都合ナキモノハ許可スヘシ

一 祠官掌并住職旅行ノ事

是レハ旅行ノ事由及祠官掌ニアツテハ他ノ神官住職ニアツテハ他
ノ住職ニ不在中ノ社寺務代理ヲサシムヘキ明文アルモノハ許可
スヘシ

○明治十二年二月三日丙五十一番達

郡區役所

本年丙五十番達土族平民家各取疊ノ條委任候ニ付テハ取扱方手續
左之通可相心得此旨相達候事

一 土族平民家名取疊之事

是レハ男女ノ戸主其家名ヲ廢シ他へ入夫縁付或ハ養子女トナリ又
ハ實家へ復籍等其情由ヲ詳ニシ親族連署ヲ以願出ツレハ許可スル
ヲ例トス

○明治十二年九月四日丁千八百三十六番達中

郡區役所

一廢嫡ニ属スル願ノ事

長男ヲ措キ次三男等ヲ立ントシテ長男ノ情願又ハ親戚連署ヲ以事
故申立其情實余義ナクシテ法律ニ觸レサルモノハ許可スヘシ
長男ノ情願或ハ親戚互ノ都合等ニヨリ他ノ養子トシ又ハ別家セン
トスル者モ前同様取扱ヘシ

但一男子ノ外男女子無之モノハ願書取添其都度伺出ヘシ

○明治十二年十月二十二日丙二百六十二番達 郡區役所

戸至又ハ嗣子タル者失踪後跡相續人取定ノ儀ハ自今委任條中嗣子
相續人ノ件ニ準據シ失踪後二十四ヶ月ヲ過候向ニ限り右ノ手續ヲ
以可取扱此旨相達候事

但從來指令ノ本文ニ抵觸候分ハ總テ取消候事

一戸至又ハ嗣子失踪シ行衛不知ニ依リ跡相續人取設度者ハ親族協儀
之上戸長役場へ申出戸長其事情ヲ詳カニシテ郡區役所へ伺出郡區
長不都合ヲキト認ムルモノハ許可ノ差圖ヲナスヘシ

但失踪後二十四ヶ月以内ノ向ハ此限ニ非ラス

○明治十三年七月一日甲百五十番布達

公私用ヲ間ハス他管下へ出候節ハ可届出旨兼テ及布達置候處往々
無届ニテ他出候者モ有之哉ニ相聞ヘ不都合ノ儀ニ候條往復トモ必
其都度所轄戸長役場へ可届出此旨更ニ布達候事
但官吏職務上ニ付出張候モノハ此限ニ非ス

○第四

徵兵下調欠

四

十四十七

○第五

地所書物船舶質入書入並ニ
賣買ニ書與加印

○明治九年四月四日告五番論達

地所家屋書入ヲ以金錢貸借ノ義ハ前々御規則頒布ニ相成夫々相達
置候通ニ候然ル處頃日牙保ノ惡意ヲ以區印其外ヲ偽造スル等ノ姦
計ヲ以金主ヲ詐キ貸財ヲ掠メ取り候者モ有之体相聞ヘ元ヨリ犯者
ハ國律ヲ以相當ノ所分可及答ニ候ヘモ犯者可償資力無之ハ竟ニ
金主ノ損失ト相成義ニ付地所等書入ヲ以金錢貸渡候節ハ借主同伴
該區會所へ出願シ區長又ハ區長代理ニ對シ地所家屋ニ於テ故障有
無ノ告示ヲ請求シテ而シテ區長又ハ區長代理ノ面前ニ於テ借主ノ
証印戸長ノ調印ヲ見届而シテ區會所役場印押割等ノ手續ヲ受ケ候
上證文金錢請取渡ノ手續ヲナスヘシ然ラサレハ前車ノ覆轍ニ倣ハ
ンコ後日又ナシトモ難期義ニ付爲心得此旨管内告諭候事

○明治十年一月十九日乙十三番布達

寺院修繕其他寺用ノ爲一時不得止借財候者在之節地所除稅地ヲ除
ノ外

建物及寄附物寺附什器等抵當ニ書入候向ハ法類檀家協議ノ上檀家
 二名以上連署各本寺法類等ノ承認ヲ受テ本寺ニ於テ右様ノ義有之
 節ハ渾テ此手續ニ隨ヒ同宗内ニテ重立候モノ二名以上ノ承認ヲ受
 クベシ決テ僧徒一巳ノ私借ト混淆無之可致旨教部省ヨリ達有之候
 條此旨寺院へ布達候事

○明治十年十一月五日丙二百五十番達

區戸長

地所ノ質入書入トハ同一物ノ類似候得共該規則ニ於テハ素ヨ
 リ別異在之隨テ帳簿モ各別ニ備ヘ置ヘキ筋ニ付若シ一紙証文ヲ以
 テ地所ト建物トヲ同時ニ書入公證ヲ乞フモノアラバ戸長ニ於テ譬
 一紙証文タリトモ其番号割印ハ必ス兩個ニ分記押印スヘキハ勿論
 ニ候處萬一取扱方區々相成候テハ不都合ニ付爾今左ノ通可取計其
 例

一金何百圓也

記

○朱書

○明治何年第何号
 此書入品地所

但何番書入

割 第何大區小何區何 村何番地字何々
 印 地坪何百何十坪

此代價何百圓

○明治何年第何号

建家幾棟

但何番書入質

印 右同區同 村同番地ニアル
 割 何百何十坪

但造作付(或ハ無之)

一庇、天井、敷居、鴨居、椽板、床ノ間、押入

等一廉每明瞭記載

此代價何百圓

圖面云々以下畧ス

右之通地所ト建物トノ代價ヲ區分記載致サセ其番号割印モ判然兩
 個ニ分テ朱書押印シ將來不都合無之様篤注意可 致右ハ是迄心得モ

可有之候へ此爲念此旨相達候事

○明治十年三月廿六日甲三十六番布達

建物書入質規則第二條但書追加ノ義本年第六号ヲ以テ公布相成候ニ付官地ニ有之人民所持ノ建物賣買讓渡又ハ書入質ヲナス時ハ左ノ通り可相心得此旨管内布達候事

第一條

官地ニ建アル人民所持ノ建物ヲ賣渡讓渡又ハ書入質トナサントスル時ハ證書ニ正副通ヲ添ヘ戸長建物所在テ經由シテ與書ヲ願フヘシ

第二條

前條書入質ノ與書ヲ乞フ時ハ別ニ負債者ノ保証人ヲ立抵當期限内ニ本人失踪ヲナス時ハ借地料區入費等ハ該建物處分濟迄本人ニ代リ負擔スヘキ旨ヲ認メタル書面ヲ添フヘシ但賣買讓渡ハ本條ノ例ニアラス

第三條

官地所在ノ建物ヲ拜借主ニ於テ取毀テ賣渡シ跡地不用ナル時ハ速

カニ該地戸長ヲ經由シテ返地ヲ願フヘシ否サレハ建物ハ引拂タルモ尙備用土地タルヲ以テ借地料ヲ徴スヘシ

第四條

(十一月甲百二十三番布達第一條但書ヲ以自身元體ナル保証人連署スヘキ旨布達)

官ノ與書及ヒ戸長ノ公証ヲ得テ買受讓受タル建物不用ニ屬スルハ其公證濟翌日ヨリ同數五日間ニ取毀テ其旨該地戸長ヲ經由シテ届出ツヘシ若其受入ニ於テ該地使用ヲ望ム時ハ第七條雛形ニ照准前拜借人ト連署ヲ以是又公證濟當日若クハ翌日該地戸長ヲ經由シ引繼拜借ヲ願フヘシ

第五條

戸長ノ公証ヲナスハ第一條第二條ニ準シ官ノ與書ヲ得タル後公証スヘキハ一般ノ成規ニ據ルヘシ尤書入質期限ニ至リ辨金ノ節戸長ヘ直チニ届出ツヘシ而シテ戸長ハ證書面ニアル官ノ與書印影ヲ剪

除シ其本書ハ本人ヘ下與シ其旨可届出其節書面ノ左傍ニ剪除シタル印影等ヲ貼附シ返上スベシ

第六條

期限ヲ定メ拜借シタル官地所在ノ建物ハ其拜借期限ニ超越スル書入質ヲ爲スコト得ス

第七條

官地引繼拜借願

官有地

國郡村地内

一地坪何程

何川堤坊地屋敷或ハ何川流上屋敷或ハ溝上屋敷或ハ何々地屋敷

此拜借料一ケ年金何程

右ハ從來家屋建築或ハ建出シ奇之取拂方事故何々ヲ以テ何某拜借罷在候處今般家屋在來ノ内何某買受尙存置致シ度候ニ付先年何ノ某へ御許可ノ通り何ノ何年マテ引繼拜借仕度尤川縁石垣ノ義ハ先約ノ通片側自費ヲ以テ修繕可仕候依テ何某ニ於テハ返上仕度此段

違著ヲ以テ奉願候以上

但無年期ノ向ハ何ノ何年マテノ年限并ニ川縁石垣自費修繕スルノ定約無之向ハ其明文ヲ除ク

石川縣第何大區小何區

何町何番屋敷

年号月日

前ニ同シ

前拜借人 何某印

引繼拜借人 何某印

副戸長 何某印

戸長 何某印

長官殿

○明治十二年二月十七日告ニ番諭達

地所建物船船質入書入并賣買ニ與書加印ノ義ハ其時昔舊區務所ニ於テ取扱來タル處郡區ノ制發行後ハ昨年丙百七十九番ニヨリ町村戸長ノ職務ヲ以テ各其役場ニ於テ本務ヲ辦理スルニ付テハ舊制ニ

比スレハ人民頗ル便利ヲ得ヘシト雖モ亦其使テ得ルニ隨テ自然疎漏弛緩ノ弊ヲ生シ易キハ世間ノ通患ニ之レアリ抑質人書入等ノ義ハ嚴テ成規モ有之處民間ニアリテハ未タ之ヲ詳知セサルモノアルヨリ動モスレハ其實人書入并賣買スルノ間或ハ人民ノ不案内テ奇貨トスル奸兒ノ譎策ヲ喫シ爲メニ爭訟ヲ招來シ或ハ勝手規則ノ伺タルヲ辨セスシテ知ラス識ラヌ自ラ犯則ニ陷ル等弊害百出竟ニ貸財流通ノ道ヲ塞クニ至ルヘク人民ノ不幸コソヨリ甚シキハナク本務取締方ノ行届クト否トニ於テ一概ノ休戚ニ關スル少小ニアラザルニ付該區戸長ニ於テハ職務中ノ件ニシテ素ヨリ其趣旨ハ了知ノ著シ雖モ尙爲シテ注意不都合無之様從事致スヘク人民ニアリテモ各自能ク此旨ヲ識メ質人書入并ニ賣買等ヲナサントスルニ當リテハ密ニ成規ヲ取調之レニヨリ以テ自ラ不慮ノ損害ニ罹サル様成意可致此旨諭達候事

○明治十一年三月十七日丙百八十六番達中

郡區役所

第五項一戸長職務ノ概目第五項ニ地所建物船舶質入書入并ニ賣買

奥書加印ノ事ト在之右ハ戸長ノ實印ヲ押シ割印ハ戸長役場印ヲ用ユヘシ

○明治十一年十二月二十日丙百九十四番達中 郡區役所

第二項

一 地所建物船舶等質入書入及ヒ賣買スルニハ町村戸長ノ公証ヲ要スル成規ノ處町村戸長ニシテ自分所有ノ地所建物船舶等質入書入及賣買セントスルハ戸長次席ノ役ヲ勤ムル者(用係筆生手傳人等)ニ取扱ハセ公証ノ割印ハ戸長役場ノ印ヲ用ヒ其由ヲ割印帳ニ登記シ置クヘシ

○明治十三年七月二十一日丙百二十番達 郡區役所

戸長役場ニ於テハ地所家屋等ノ書入質入ヲ公証スルニ際シ該証書ノ利足制限ニ超ユルト否トハ公証ニ關セサルモノト可相心得此旨相達候事

但本文ニ抵觸スル從來ノ指令ハ消滅ト心得フヘシ

明治十一年三月四日丙午三番達
自第六大區至第十三大區
地券証既ニ調整ニ及ヒ未タ下附セサル内賣買讓替等申出候向是迄
一旦願書却下シ來候得共爾來ハ該願書ヲ受理シ再ヒ書替ノ手數ヲ
經テ更ニ下附候條証印稅ノ義ハ既ニ調整ノ分正兩様ニ收納候儀ト
可相心得此旨豫テ相達置候事
但出願之都度調整ノ趣ハ時々主務ヨリ可及達候事

○第六

地券壹帳

○明治十一年三月四日丙午三番達 自第六大區至第十三大區

區 戶 長

地券証既ニ調整ニ及ヒ未タ下附セサル内賣買讓替等申出候向是迄
一旦願書却下シ來候得共爾來ハ該願書ヲ受理シ再ヒ書替ノ手數ヲ
經テ更ニ下附候條証印稅ノ義ハ既ニ調整ノ分正兩様ニ收納候儀ト
可相心得此旨豫テ相達置候事

但出願之都度調整ノ趣ハ時々主務ヨリ可及達候事

○明治十一年七月八日丙午三番達 (丙四十三番ト) 自第一大區至第五大區

區 戶 長

○明治十一年五月二十四日甲午八十番布達

遠隔ノ場所ニ所有地有之者賣祖諸掛其外ノ儀ニ付往々不便ノ次第
不尠因テ其同ニ於テ各代人相立該地ニ關スル事件可相辨且各代人
取極候上ハ豫テ該區務所へ人名可届出候此旨管内布達候事

○明治十一年九月十六日丙午五十番達

區 戶 長

地所賣買讓渡ノ節ハ必スシモ舊新地主約定爲取結當時地租金納主
取極可置處往々其手續ヲナサ、ル者モ在之不都合候條券狀書替出
願ノ際篤ト注意可致此旨爲心得相達候事

○明治十一年十月三十一日乙三十三番布達

地所賣買讓渡等は迄出願之都渡券狀ヲ書換下附致來候得共更ニ券
狀裏面へ界欄ヲ設ケ地租反別ニ増減ヲ生セサル賣買讓渡等ハ欄内
ニ其事由ヲ記入シ可下附管ニ候就テハ即今裏書指立之分者當分入
交可相渡候條出願ノ順序印稅收入方之義者總テ是迄ノ通り可相心
得此旨第一大區ヨリ第十三區マテ布達候事

但免租李明及ヒ裂地合併其外共地租反別ニ増減ヲ生スル分者總
テ是迄之通り書換相渡候事

○明治十一年十二月十二日丙百八十四番達

第一二三區
區戶長

地券既ニ調整ニ及ヒ未タ下附セサル内賣買讓替等申出候向へハ該
券裏書ノ上下附候條右様已ニ調整ニ係ル分ニ限リ初度及ヒ裏書ノ
分印稅兩様ニ收納候儀等可相心得此旨豫テ相達置候事

但出願ノ都度調整ノ趣ハ時々主務ヨリ可及達候事

○明治十二年二月二十日甲二十一番布達

地租改正未濟ノ民有山林等賣買讓渡ヲナスルハ自今別紙書式ニ照
準戸長役場へ可差出此旨布達候事

何郡區何町村地内山林等賣買約定濟御届

字	名稱 反別	賣買代價
、、、	山林、、、	金 何拾圓
、、、	、、、	、、、

右何ノ誰持地(ノ内)前條代價ヲ以テ賣買約定仕候依テ地券御渡ノ
節ハ何ノ誰名前ヲ以テ御授與被下渡此段連印ヲ以テ御届申上候以
上

年号月日

何郡區何町村

賣人 何ノ誰 印

同 斷

買人

同断

証人

同

印 印 印

(証人ハ兩名已上

タルヘシ)

石川縣長官宛

○明治十二年三月十日丙百二番達

江沿能美石川金澤河北羽咋鹿島
鳳至珠洲瀨波射水婦負上新川下新川

郡區役所

地所議管賣買等ニ付地券書替願書式ノ儀舊戸長ヘ追々相違置候次第モ在之候處今般更ニ別表ノ通相定候條各戸長ヘ示達致シ置ヘク此旨相達候事

○明治十二年五月十六日甲七十四番布達

一地券下與及ヒ書換ノ事務郡區長ニ於テ可爲取扱旨其筋ヨリ達ニ付地所賣買讓與及ヒ水火盜難遺失ノ地券ニ係ル諸願伺届ハ郡區長名充テ以テ差出スヘシ

地券御書換被下度此段奉願候已上

年月日

長官宛

何郡區町村何番地

相賣人 何 某印

前書之通相違無之依テ與印仕候以上

戸長 何 某印

隱居(離縁復籍)ニ付地券御書換願
何郡區町村地内

字 番 名稱

反 別

五ヶ年据置地價

合 計 宅

但

何 〇

歩 何 厘

地所賣買ニ付地券御書換願
何郡區町村地内

字 名稱

反 別

五ヶ年

合 計 田

地券書換願等心得

- 第一項 家督相續讓受賣買改姓名轉居等總テ異動ニ係ルモノハ一町村毎ニ願書ヲ認ムヘシ
- 第二項 下條ニ願書式ヲ示ス如ク一町村内ト雖莫離形毎ニ類別願書ヲ認ムヘシ
但表中反別ノ下〇合計ノ下〇印ヲ示スモノハ戸長ノ照査印ニシテ則戸長ノ見留印ヲ捺スヘシ
- 第三項 賣買讓渡裂地家督相續改姓名轉宅等ニテ地券面書換願ハ別書ニ不
及此他ノ分ハ尤正副二本ヲ差出スヘシ
- 第四項 賣渡讓渡等願出ノ内幼少ニテ後見有之者ハ至親ノ内二名以上保證
連印スヘシ
但買受主幼少ニテ後見人ヨリ願出ルモ本文ノ限ニ非ス
共有地ニ係ルモノハ一同連印ヲ要スシ然レバ一同承諾ノ上畧シテ
總代人ニ委託スルキハ二名以上連印スヘシ
- 第五項 代理人ヲシテ願出ルキハ明治六年第二百十五號公布ニ據リ委任狀
ヲ有スルモ其委任狀ニ副本ヲ添ヘ願書トモニ差出スヘシ本書ハ副
書ト割印ヲ捺シ地券トモニ返戻ス
- 第六項 死亡者跡相續地券書換ノ儀ハ明治八年第五百十三號公布ノ通家督
相續ノ日ヨリ滿六ヶ月以内ニ願出ルモノトス
但即今新地券調整中ニテ未タ新舊地券モ領收セサル向モ有之ト
雖モ戸主死亡ノ跡相續ニヨリ讓受タル地所ハ新地券授與ノ節相
續人誰名前ノ地券下渡方其都度左式ニ照準願出スヘシ
- 第七項 凡ソ地所買受讓受ノ確証有之モ明治八年第六百六號同五百五十三號公
布ノ通地券ヲ申受サレハ所有ノ權利無之モノトス
- 第八項 水火盜難等ニ罹リ地券ヲ失フトキハ明治五年大藏省第二十五號達
書ノ通り二名以上ノ証人連署地券下渡ヲ願出スヘシ
但盜難等ニテ失フモノハ所轄警察署ヘ届出ノ趣願書中ヘ相認差
出スヘシ
- 第九項 地所變換ニヨリ地租ニ異動ヲ生スルキハ許可ヲ得テ后チ地券書換
ヲ願出スヘシ
- 第十項 但田畑成畑宅地成等ノ類ハ左式届書ニ據ルヘシ
- 第十一項 地券面書換ハ出願ノ順序ニヨリ速成下與スヘキ處尙至急ヲ要ス
ル情實有之キハ戸長ノ副書ヲ以當人出願願出ルモノハ直チニ書
換下與スル事アルヘシ
- 第十二項 地券下與及印稅上納手續ノ儀ハ本年丙二十四番當縣達ノ通タル

第十三項 數名共

副差出 但一

第十四項 右共有

賣買等 不及

第十五項 右條項

簿ノ 但券

第十六項 本文ニ

改租未

第十七項 地券証

金高貳圓

同 貳百圓

同 貳百圓

同 貳百圓

同 五百圓

同 五百圓

同 千圓

同 千圓

同 貳千圓

同 貳千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

同 五千圓

荒地其他無代價
荒地起返及ヒ開
地ヲ數筆ニ分裂
テ所有主變換セ
右件外ニ係ルモノ
明治十二年

ヘシ

第十三項 數名共有地 券面ニ名前悉記ノ分ハ連名簿ヲ兩册調製シ願書ニ取副差出スヘシ

但一郡區町村共有地及諸會社ノ類ハ此限ニ非ス

第十四項 右共有地券名簿壹册ハ本廳ニ留置ヤ壹册ハ下附スヘクニ付其後賣買等ニ涉ルキハ右下渡セシ連名簿ヲ相副差出儀ニ付再度調製ニ不及事

但券面登記者ノ異動ヲ除クノ外名簿中ノ異動ハ願書ニ右連名簿ノミ相副差出スヘシ

第十五項 右條項ノ内第四第九第十項ニ係ルモノハ郡區役所ヲ經由差出スヘシ其他ノ分ハ戶長與印ノ上直キニ願出ルモ妨ナシ

第十六項 本文ニ願書式ヲ示スモノハ地租改正既濟ノ地ヲ指スモノニシテ改租未滿ノ地ハ本年甲二十一番本縣達ノ通タルヘシ

第十七項 地券証印稅ハ左ノ規則ノ通上納スヘシ

金高 貳圓未滿

券狀壹通ニ付 壹 錢

同 貳圓以上

千分ノ五 卽十圓ニ付五錢

同 百圓迄

五十 錢

同 貳百圓以上

壹 圓

同 五百圓以上

壹圓廿五錢

同 千圓以上

壹圓五十錢

同 貳千圓以上

貳圓五十錢

同 五千圓以上

三圓七十五錢

右金高ハ券面ニ記セシ地價金ナリ

代替授與并水火盜難ニヨリ地券書換証印稅

壹通ニ付 壹 錢

荒地其他無代價券狀授與証印稅

同 同 錢

荒地起返及ヒ開墾餘下年季明地其他一筆地ヲ數筆ニ分裂數筆地ヲ一筆ニ合併等ニテ所有主變換セサル地券書換証印稅

同 同 錢

右件外ニ係ルモノハ事由ヲ詳細ニ諷メ願出スヘキ事

明治十二年三月

裂地ニ付地券御書換願

何郡區町村地内
 字 何ノ一番 田 名 反 別 〇 五ヶ年据置地價

何 内 一番ノ一 田 〇
 何 一番ノ二 田 〇
 裂地合併ニ付地券御書換願

何郡
 字 何ノ二番 田 名 反 別 〇 五ヶ年
 内 二番ノ一 田 〇
 内 二番ノ二 田 〇

又
 字 何ノ三番 田 名 反 別 〇 五ヶ年
 内 三番ノ一 田 〇
 内 三番ノ二 田 〇

右イノ二番ノ二トイノ三番ノ二ト合併
 字 三番ノ三 田 名 反 別 〇 五ヶ年

但 見取圖相副申候

右何ノ誰所有地ノ處今般何々ノ故子以(裂地(合併等仕度御座候間地券御書換被下度此段奉願候已上

何郡區町村何番地

持主 何 某印

年月日

前書 長官宛 戸長 何 某印

地所變換御届 但届書正副二本差出スヘシ

何郡
 字 何ノ一番 田 名 變換名稱 反 別 五ヶ年
 宅地成 〇
 畑地成 〇

裂地變換御届
 何郡
 字 何ノ一番 田 名 反 別 〇 五ヶ年

記

字何々何番

何郡區町村

一田畑宅地 何町步

何ノ某外何名

地價金若干

共有地

此二ヶ半金若干

内譯 (反別ハ歩位ニ止メ地價地租ハ厘位ニ止ムヘシ 市街地坪ハ夕位ニ止ム)

一田何反

何—某印

地價金若干

此二ヶ半金若干

一畑、

地價金若干

地二ヶ半金若干

合計田

地價金

二ヶ半金

何郡區町村

共有持主

字何々何番

一田畑宅地 何反步

地價金若干

此二ヶ半金若干

但内譯難仕候

右八名共有地ニ相違無之候ニ付連名簿奉差上候已上

合何十名

年月日

右總代

同

官長宛

戸長

何—印

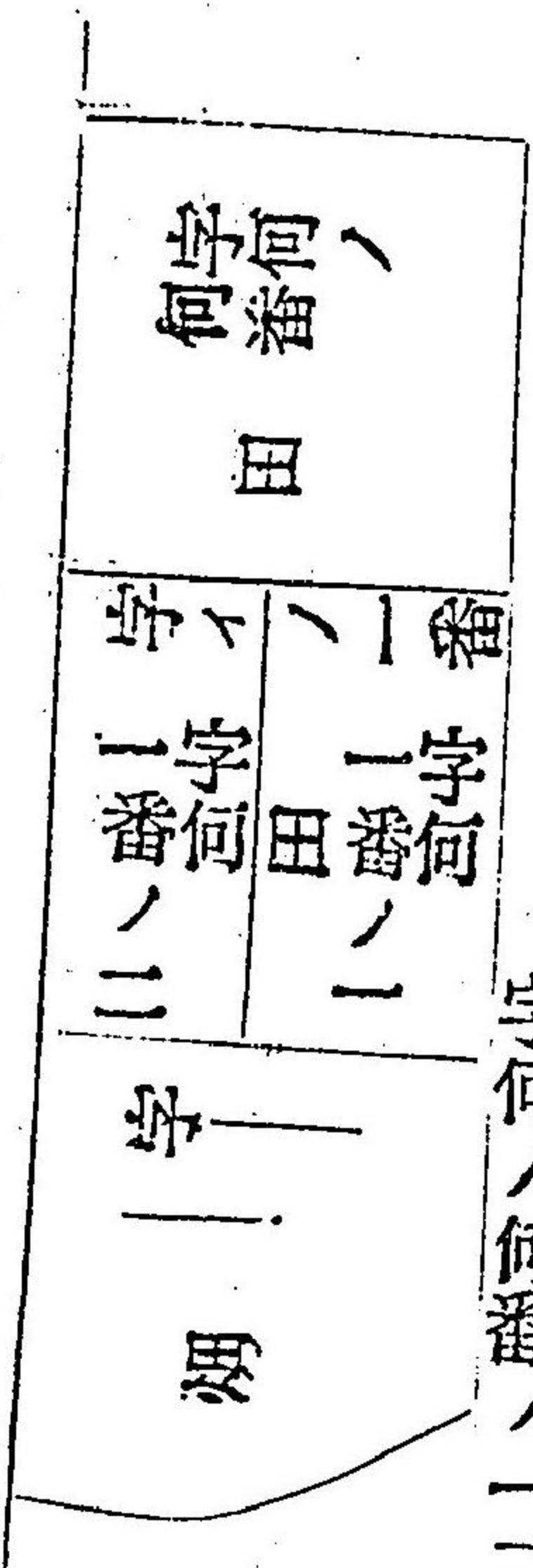
何—印

何—印

何—印

左ノ見取繪圖雛形ハ其大畧ヲ示スモノニ付地圖ヲ製スルキハ四隣ノ地形ヲ顯スヘシ

郡村ノ分 用紙中折



裂地ハ元番ノ下ヘ地順ニ本文ノ如ク 字何ノ何番ノ一二ト順序ニ附スヘシ

名
有地

ム
シ

某印

何
印

合何十名

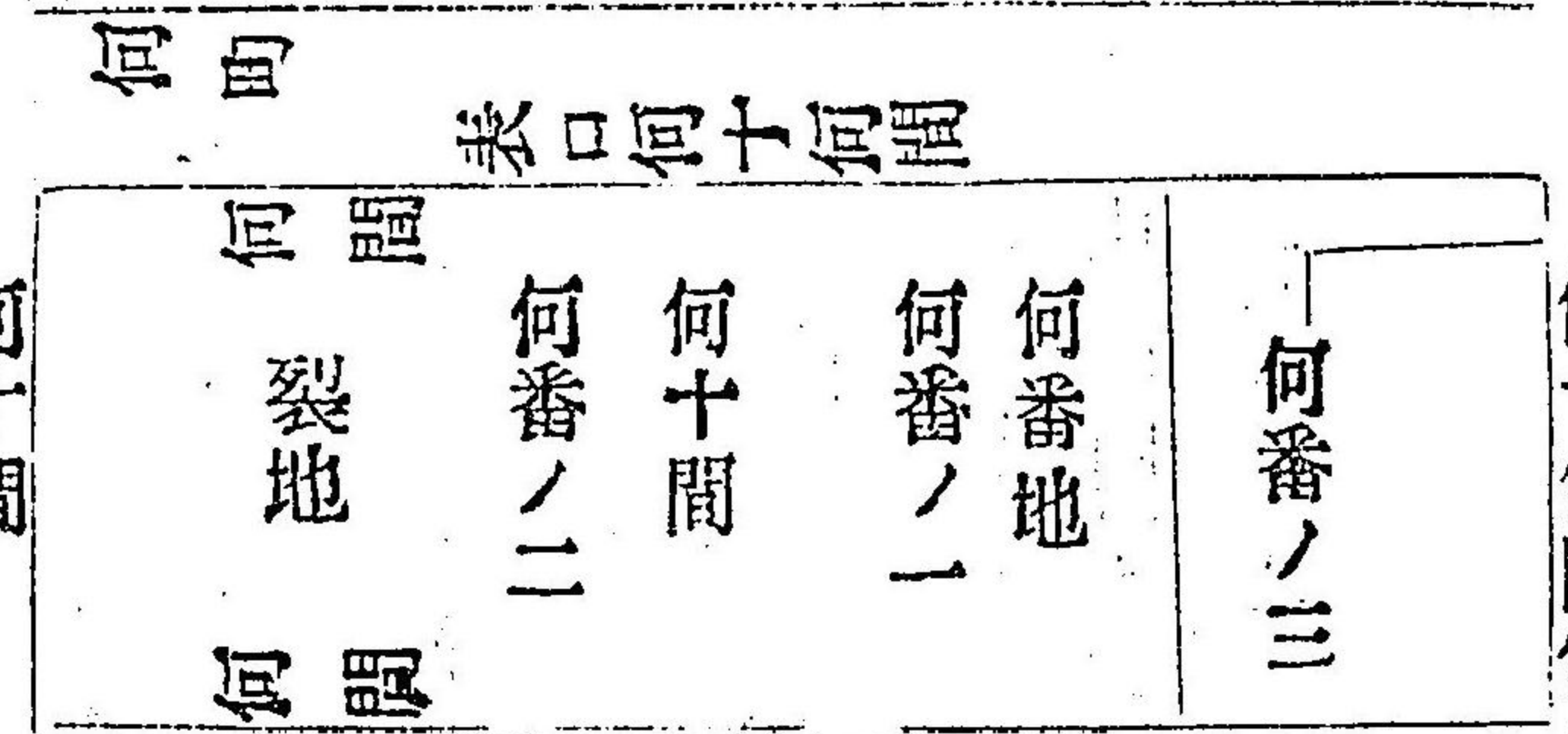
何
何
何
印
印
印

片ハ四隣ノ地形

順
順
ニ
ニ
本
本
文
文
ノ
ノ
如
如
ク
ク
ヘ
ヘ
シ
シ

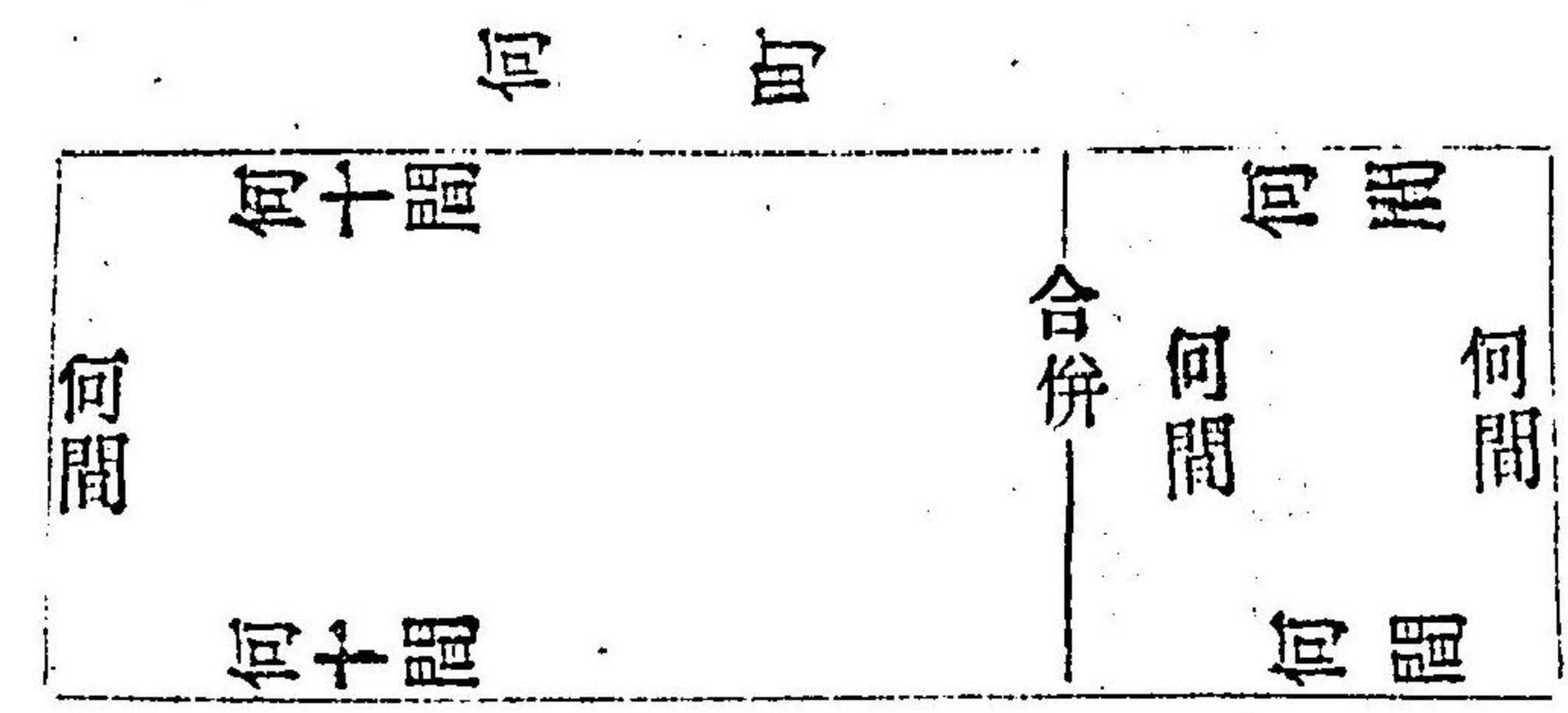
裂地ノ例

右之通相違無御座候已上
年月日

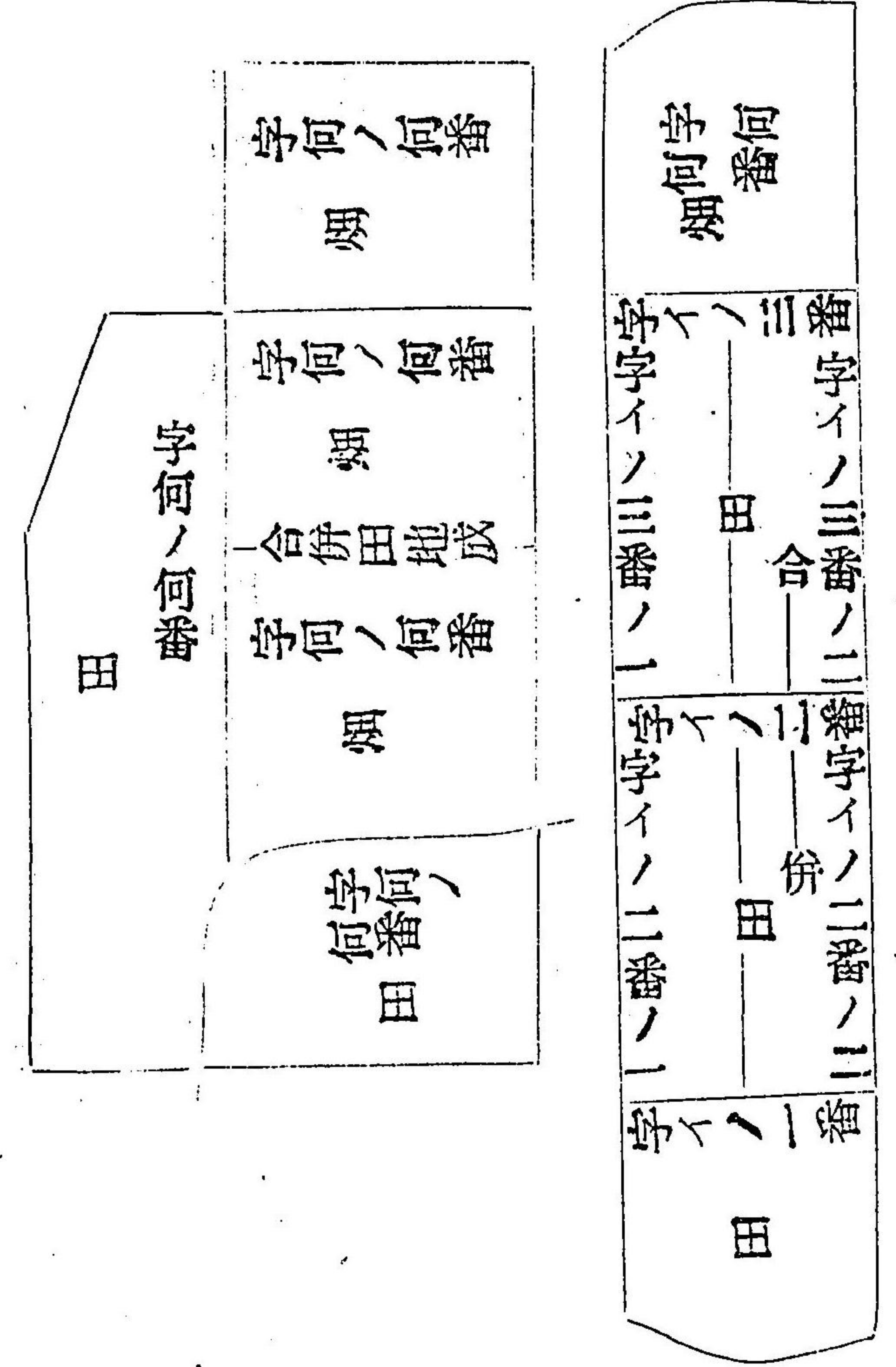


市街地ノ分
但市街地中ノ耕地ハ間尺記載ニ及ハス
是ハ元壹筆ノ内ヲ二筆ニ裂キ而シテ后又何番ノ一ノ内ヲ裂ク片ノ例ニシテ裂地番号ノ順ニ本文ノ如ク附スヘシ
何十間何尺

併合ノ例



地
主
何
何
買
受
人
何
何
某
印
某
印



地ノ例

何番ノ一	何十間	何番ノ二
何十區	裂地	何十區

右之通相違無御座候已上
年月日

例ノ所

何十區	何十區
-----	-----

地至何——某印
買受人何——某印

但地券毫帳引渡ノ都合有之ニ付實施ノ義ハ郡區長ヨリ順次及公
告候迄ハ從前手續通り相心得フヘシ
一初度發行ノ地券ハ從前ノ通り本廳ニ於テ下與スヘシ
但地租改正ニ付舊式券狀ヲ書換ナルモ本文ニ同シ
右布達候事

○明治十二年七月十八日丙二百番達 郡區役所
死亡者ノ跡家各相續ニヨリ讓受タル地所ハ地券授受ノ未前ニ候ト
モ都テ滿六ヶ月以内地券請求方可申出處ヤニハ新地券下與候上申
出相續ノ節ヨリ滿六ヶ月ヲ經過シ爲メニ成規ニ照シ其處分ニ及ヒ
候儀モ有之候間後后戶長ニ於テ厚ク注意シ讓受タル日ヨリ滿六ヶ
月以内申出候様可取計此旨爲心得可相達置候事
○明治十二年七月十九日丙二百七番達 郡區役所
是迄地券ト毫帳ト割印致來候得共今般其筋ヨリ達ノ次第在之自今
割印相廢候條此旨相達候事

○明治十二年四月十二日丙百二十六番達 郡區役所
 今般別冊地租改正事務局乙第三号(畧之)達ノ通り地券下與及ヒ書
 替ノ事務郡區長ニ於テ可取扱尙實施及ヒ手續ノ謄ハ追テ可相達此
 相達候事

○明治十二年五月十六日丙百五十番達

郡區役所

本年丙百二十六番達實施及ヒ手續ノ義ハ左ノ件ニ照準可取扱此旨
 相達候事

- 一 地券臺帳ハ地券初度發行濟ノ各町村ヨリ順次可下渡ニ付引繼候
 町村へ及公告丙百二十六番達ノ通取扱フヘシ
- 一 臺帳下渡方ハ主務官ヨリ可及通達ニ付郡區書記ノ内出廳可引受
 義ト心得フヘシ
- 一 臺帳引繼カサル町村ノ賣買讓與一切ノ願伺届ハ從前手續通り本
 廳へ願出サシムヘシ
- 一 券狀裏面余白ナキ等ニテ書換フルモノ、爲メ當分從前ノ用紙下
 渡スヘクニ付當七月ヨリ入用高凡積見込相立請求方申出ツヘシ

一 當分從前ノ地券紙可相用ニ付テハ裏書ノ謄本年第七号公達ニ照
 準左ノ通記載下與スヘシ

(系編並不動文字ヲ印刷シ置クモ妨ケナシ)
 雛形

何國何郡何町 區何村	何ノ誰		
表書ノ地所自今右記名 ノ者所有タルヲ確認 ス			
年月日	主事		
區長何某			

一 地所賣買濟讓與願出ルモノ幼少ニテ後見アルモノハ親族ノ内二名以上保証セシ上許可スルヲ例トス

但(買讓)受主ノ後見ヨリ願出ツルハ本文ト限ニ非ス

一 地所賣渡讓與等代理人ヲシテ願出ツルモ明治六年第二百十五号公布ニヨリ權限ヲ與ヘタル委任狀ノ點檢ノ上許可スルヲ例トス

一 死亡歸系名相續ニ由ツテ讓受ケタル地所ハ明治八年第五百十三号公布ニ照シ若シ抵觸スルモノアルモ直ニ所轄警察署ヘ告發シ處分濟ノ上地券下與スベシ

一 水火盜難遺失ニ係ル書替願ハ明治五年大藏省第二十五号達第六條ニ照シ取扱フヘシ

一 証印稅ハ規則ノ通り徵收スヘシ

一 徵收セシ印稅上納手續ハ追テ相達スヘシ

一 地券臺帳加除方左ノ如シ

一 賣買讓與等ノ都度臺帳ノ加除ハ向來錯雜セサル様注意シ所有主變換スルトモ前載ヲ消印シ順次々録ニ記入シ割印ノ位置ヘ其

欠

MISSING

事由ヲ記載シテ主任之レニ捺印スヘシ

一 地所分裂ノ節ハ前載ヲ消印シ何番ノ一二ト番号ヲ記シ更ニ帳尾ニ記入スヘシ

一 地所合併ノ節ハ何番何番合併トシ裂地同様帳尾ニ記入スヘシ

一 裂地合併ニ係ルモノハ反別ノ下ニ朱字ニテ其事由ヲ記載スヘシ

一 裂地合併ニ因テ反別地價地租ニ増減ヲ生シ或ハ無増減ノ事ヲ反別ノ下ニ朱字ニテ記載スヘシ

一 分合ニヨツテ反別地價地租ニ増減ヲ生シタル分ハ三ヶ月毎取纏簡明ノ表面ニ記載シ届出ツヘシ

一 地券臺帳引渡シ後郡區役所ニ於テ地券書替ニ使用スル券狀用紙ノ義ハ凡三ヶ月間使用ノ額ヲ見込ニ豫メ縣廳ニ可申立テ

○明治十二年九月十九日丁十九頁十九番達 (十二年丙九十九番見合)

江沼 能美 石川 金澤 河北 鹿島
羽咋 礪波 (鳳至珠洲) 射水

婦負 上新川 下新川

郡區役所

地券臺帳引渡候後由畑成畑田成宅地成等ノ數取扱方左之通可相心得此旨相達候事

但シ田地ヲ隔年又ハ一季二季便宜ノタメ畑仕作ヲ付ル分ハ此限ニアラス

取扱ノ手續

第一條

地券臺帳引渡之後各町村ヨリ本文届出候ハ先ツ臺帳ニ照合シ實地檢査ノ上不都合ナキモノハ券面ヘ左ノ如ク朱書シ郡區役所ノ印ヲ捺シ直チニ下與スヘシ尤臺帳ニモ其事由反別ノ側ラニ記入スヘキモノトス

但シ地價ノ義ハ改正年度中据置何地成ト記入スルニ止マル

券面朱書式

○印朱書

一何反別

明治何年

何地成

○

郡區役所ノ印

此地價

此地租

第二條

前條ノ如ク券面ヘ朱書捺印ノ上之レヲ人民ヘ下與シ畢リテ該届書ヲ三ヶ月毎ニ取纏メ縣廳ヘ指出ス可シ

第三條

前條ニ掲クルハ耕地地ノ類普通變換ノ取扱方法ヲ示シタルモノニシテ眞地墳地開墾等故ラニ地形ヲ變換セントスルモノハ先ツ其願書ヲ受理シ之レヲ臺帳ニ照合シ不都合ナキモノハ其旨郡區長添書ヲナン是迄ノ通縣廳ヘ差出スヘシ

第四條

廿二年
廿四年
以
九番
加

第一條第二條ニ據ル田畑成畑田成宅地成ノ類實地検査齊ノ上ハ
改租ノ際調製セル一筆限繪圖面ニ掛紙ヲナシ何年何地成ト細書ス
ヘシ

○明治十三年四月廿一日地租二十九番達 郡區役所

自今一筆ノ地ヲ裂キ賣買讓渡シ出願ノ節反別暨地價引分方ニ就テ
ハ最其地位ニ應シ偏頗無之様其全額ニ差違ヲ生セス相當ニ區分可
致否ニ付該地戸長ニ於テ實地立會遂検査申立不都合無之ト見認メ
候ハ、其趣與書ヘ記載裂地丈量繪圖相添出願可爲致儀ト可相心得
此旨相達候事

越前七郡ヲ除ク

郡區役所

○明治十三年六月二十三日丙九十九番達

田畑宅地成等ノ變換地取扱方ノ儀ニ付テハ兼テ相達置候趣モ有之
候處本年第二十五号公布ニ據リ客歲丙百二番縣達第十項但書及ヒ
丁十九百六十九番達ノ内變換取扱ノ順序ハ明治八年改租ノ外ニ限

リ都ノ取消候條自今若之類ハ近傍ニ比較シ相當ノ地價ヲ付シ該地
見取圖等相添可爲願出此旨相達候事

但明治九年改租ノ郡ハ來々十四年ヨリ九年后半年改租ノ市街ハ
來十四年后半年ヨリ本行ノ通可相心得候事

○明治十三年七月十四日乙六十番布達

地所賣買讓與ノ儀ニ付明治十二年(四月)乙三十五番布達置候處同年
十二月番外ヲ以テ郡村耕宅地收買地價再調ノ殘行達候ニ付右乙三
十五番布達ハ取消自今地所賣買讓與ノ節ハ舊式券狀ニ改正反別賣
買價(代替讓與ハ舊地價)ヲ記入シ其都度書換可相達候條福申出張
地租改正事務所ヘ可申出此旨越前七郡市街地ヲ除キ布達候事
但雜種地ノ義ハ當分是迄ノ手續ヲ以テ契約證爲取換可申事

○明治十三年七月三十日丙百二十五番達

越前七郡ヲ除ク

郡區役所

田畑宅地成等ノ變換地取扱方ノ儀ニ付本年丙九十九番ヲ以テ相示シ

置候趣毛有之候處自今右出願ノ節ハ別紙書式ニ照準該地見取繪圖
等相添ハ可爲致出願此旨相達候事

地所變換願

字番号

田反別何程

此地價何程

此地租何程

一變換宅地反別何程

内何程畦畔増歩

此地價何程

字番号

畑反別何程

此地價何程

此地租何程

一變換田反別何程

此地價何程

(田畑或宅地田畑或等渾々右ニ較ヘ)

右者今般何々成變換仕度候ニ付實地御検査之土地券御書換被成下
度尤近隣ニ於テ聊カ障得ノ筋依之別紙比較表地價取調書及ヒ繪圖
面相添此段奉願上候以上

何國何郡區何町何番地

年号月日

地主

何ノ誰印

地主總代

何ノ誰印

戸長

何ノ誰印

長官宛

比較地價取調書

字番	名稱反別	地價	地租
字何何番	宅反別何程	何程	何程
四圍接續地價取調書			
字何何番	田何程	何程	何程
	宅何程		
	畑何程		

右者字何何番地比較及四圍接續地價書面之通ニ御座候也

年月日

長官宛

何國何郡區何村

地主何ノ誰印
戸長何ノ誰印

○第七

迷兒捨兒及亡行旅病人變死人其他事變アルル

ハ警察署ニ報知

○明治九年十月十一日丙午二百二十二番達

區長

旅行途中發病等ニテ過送方戶長ハ依頼候節管内ノ者ニ候ハ確証無
之件ハ一先本籍戶長ハ照會之上過送取計候様正副戶長ハ可相達此
旨相達候事

○明治十年四月二十八日丙午二百二十一番達

區戶長

各府縣ヨリ過送人宿村ニ於テ繼立候節途中費用等繰替帳ハ記入方
往々疎漏ニ涉リ候向在之繰替金償却ノ節他府縣等ニ於テ調査方差
支候條以來必ス縣名及ヒ宿村凡別紙雛形ニ照準判然可致記載此旨
相達候事

記

添書

一 壹通

差添人足

一金何錢

晝食或ハ一泊買トカ

第七

右何宿村へ引送候也

石川縣下何宿村

年号月日

正副戸長或ハ内國通運會社印

區戸長

○明治十一年三月二十日丙六十一番達
脱籍人行旅病人及ヒ處刑濟ノ者原籍へ送送ノ節附添人費用其送送者管内外ヲ別クス官費支給相成候條爲心得此旨相達候事

○明治十一年四月十一日丙七十三番達
明治五年二月大藏省第十一号布達宿村ニ義必ノ宿村毎ニ總立候ヲハ徒ラニ時間ヲ費シ從テ入費モ相嵩候ニ付自今可成夫々宿隣ニ取計ヒ凡費省減相成候條可致此旨相達候事

○明治十一年十一月廿七日丙百七十一番達
宿村送テ以原籍へ引渡ノ者体泊賄費ノ外人力車或ハ駕籠ヲ以テ傳

通候ヨリ旅費相嵩ニ歸籍ノ後償却方ニ付父兄親戚ノ者難疏致候趣ニ相用候條以來各驛ニ於テ送送人總立候節假令本人望ニ候モ病氣

等不得止事故アルニ非サレハ可成本人へ説諭ヲ加ヘ人力車或ハ駕籠ヲ不指出様ニ層注意可致此旨相達候事

○明治十二年四月十五日甲五十四番布達

明治六年大藏省第五十二号布達及七年内務省甲第二十四号布達ニ因リ宿村送諸費并行旅病人倒死人等諸費ハ其家元ヨリ償却スヘク處其家貧窮或ハ断滅候ハ、父子兄弟ヨリ可相償若シ父子兄弟無之歟或ハ貧窮等ニテ辨償不能分ハ該町村ノ協議費ヲ以テ支辨候條ト可相心得此旨相達候事

○明治十二年三月三日丙九十六番達

行旅病人等取致心得方別紙ノ通警察課へ相達置候條自今右等ノ者警察官ヨリ引送候者ハ不都合無之様可致段各町村戸長へ可示置此旨相達候事

○明治十二年三月三日警第六号達

昨十一年三月警第十五号ヲ以テ相達候警察處務心得書中へ左ノ一章追加候條此旨相達候事

行旅病人等取扱心得

第一條 行旅ノ者路上并旅宿ニ於テ病發スル者戸長ヨリ報告スルカ又ハ警邏ノ際見聞スル者ハ明治四年六月十七日公布行旅ノ警邏氣取扱規則ニ依リ該地ニ於テ醫療手當等致サシムヘシ

第二條 病人若シ死去候ハ、變死傷檢視手續ニ照準戸長立會檢視ノ上死體ハ戸長ヘ引渡シ假埋致サセ住所姓名等分明ニ候ハ、原籍ヘ通知セシムヘシ

第三條 住所姓名等不分明ナルモノハ變死傷檢視手續於得第十三條ノ通り揭示セシメ仍ホ新聞誌ニ掲載廣告ノ爲メ人相等詳細本廳ヘ開申スヘシ

第四條 路上棄兒アル者戸長ヨリ報告スルカ又ハ警邏ノ際認ムル時ハ篤ト其生死ヲ取調生者ハ速カニ戸長ヘ引渡シ變自セシメ死者ハ變死傷檢視手續ニ照準戸長立會檢視ノ上死體ハ戸長ヘ引渡シ假埋致サセ仍ホ其次第郡區役所ヘ通知スヘシ

第五條 稚兒遺ニ迷フモノヲ戸長ヨリ報告スルカ又ハ警邏ノ際認ム

ル時ハ手段ヲ以テ其住所ヲ問詰ムヘシ住所不分明ナルモノハ該地戸長ヘ引渡シ仍ホ其次第郡區役所ヘ通知スヘシ

第六條 迷兒若シ其住所分明ニシテ其郡區(行政郡區ヲ云フ)内ナラハ直チニ之ヲ送致シ他ノ郡區ナラハ一時該地(迷ヒアル地)戸長ニ預ケ置キ本籍戸長ヘ通知スヘシ

第七條 路上若シ乞食体ノ者徘徊スル時ハ原籍取調シ有藩ノ旨ハ一時該地ノ戸長ヘ引渡シ本籍管内ナラハ直ニ送致セシメ若シ管内ナルキハ明治四年四月并同年十二月公布脱籍無産ノ徒復籍規則ノ通り取計ハシムヘシ

第八條 乞食体ノ者原籍州然セサルカ又ハ無籍ノ者ニ候ハ、警察本分署廳ヲ以テ最寄懲役署ヘ引渡スヘシ尤モ原籍不到然ノモノハ懲役署ニ於テ情々問糾シ原籍府縣(照會)手續ヲ盡スヘシ

第九條 暗喑等ノ者路上ヲ徘徊シ公衆ノ妨害ヲ爲スカ又ハ病發等難儀ノ体ニ見認ムル者ハ手段ヲ以テ其住所ノ方位ヲ問詰シ見知ノモノナキヤ取調ヘ若住所不分明ニシテ見知ノモノ無之ハ警邏本分

署繼ヲ以テ最寄懲役署ヘ引渡シ仍ホ新聞誌掲載廣告ノ爲メ人相等詳細本廳ヘ開申スヘシ

第十條 路上瀆ニ隣ヒ失心スルモノアラハ之ヲ保護シ最寄人民ニ介抱セシメ其暴動スルカ或ハ最寄人民介抱スルヲ肯シセサル時ハ警察本分署近接ノ地ハ本分署ヘ召連シ遠隔ノ地ナラハ其地ノ戸長ヘ引渡スヘシ

第十一條 路上狂癡人アル時ハ穩ニ之ヲ介抱シ手段ヲ以テ其住所ヲ問調シ本籍分明ニシテ其郡區内ナラハ直チニ之ヲ送致シ他ノ郡區ナラハ一時寄地ノ戸長ヘ引渡シ置キ本籍戸長ヘ通知スヘシ

第十二條 狂癡人本籍不分明ニシテ據ルヘキノ地無之モノハ警察本分署繼ヲ以テ最寄囚獄署或ハ懲役署ヘ引渡シ且新聞誌ヘ掲載廣告ノ爲メ人相等詳細本廳ヘ開申ス可シ

第十三條 道路ニ於テ物債一錢ニ過キサル些少ノ附木類ヲ押賣スルモノアラハ其原籍ヲ問調シ爲シ説諭ヲ加ヘ歸籍致サスヘシ
○明治十三年五月廿四日丙辰八十八番 郡區役所

郡區長掌管ニ仕條件ノ内行旅病人宿村送り及病死ノ廉價除候旨容年十二月丙辰三百七番ヲ以相送候ニ付テハ右入費請求手續今後戸長ヨリ別紙甲乙号書式ニ倣ヒ郡區役所ニ請求申出サセ該役所ニ於テハ醫備金ノ内ヲ以總督渡置三ヶ月毎取廻別紙丙号書式ニ照準受取方可申出此旨相送候事

但各々一月内五番達中本文請求手續及ヒ加賀能登越中三ヶ國舊區戸長ヘ九年十二月丙辰三百番前國舊區戸長ニハ十年二月丙辰十九番ヲ以相送置候總督金届表共廢止ト心得ヘシ
(戸長役場ヨリ請求書式正副二通指出一通ハ郡區役所ニ留置クヘシ)

復籍人諸事請求書

甲 一金何程

請求高

此詳 内詳書式ハ一二ノ概畧ヲ示スニハ尤甲ニアツテ乙ニナキ費用ノレハ尙實際ニツキ甲乙ニ照準記載スヘシ
何府縣何(郡區)何(町村)族籍或ハ誰何男弟トカ

金何程 差添人足賃其外トモ通送
ニ係ル諸費官費トス

何某

但已巳四月以前脱籍ノ者復ノ旨何府縣何警察署等ヨリ傳達
有之本年何月中甲(町村)ヨリ丙(町村)迄通送途中差添人足
其外諸雇費

内

金何程 甲町ヨリ乙町迄差添人足一人ノ賃

金何程 乙町ヨリ丙町迄前全断

金何程 病氣ニ付甲町ヨリ乙町迄駕籠一挺代

金何程 前同断ニ付乙町ヨリ丙町迄人力車一挺代

金何程 全人

但前全断ノ節云々

内

金何程

何々

金何程

何々

全

金何程 (放免復歸ノ者ニ付差添人ニ及ハズ) 何某

但國事犯處刑ノ者満期原籍ニ通送ノ旨何府縣何警察署等ヨ
リ傳達在之本年何月中甲(町村)ヨリ丙(町村)迄通送途中賄
料

内

金何程 晝飯一度金何程宛何度分

金何程 泊一度金何程宛何度分

金何程 全人

但前同断ノ節何(町村)ニ於テ何々ニ付藥價或ハ何々

内

金何程 何藥何程代

金何程 何郡何町 於本年何月何日男女並年齡大綱何々ニ付

取片付諸費

内 金何程

何藥何程代

金何程 甲地ノ死人ヲ乙地

送夫何人ノ賃

送附ノ節

但一人ニ付金何程充

金何程

揭示札一枚代

金何程

棺桶一個代

金何程

吊料

金何程

看守人何人ノ賃

金何程

但一人ニ付金何程宛日

金何程

數何日分

金何程

蠟燭何挺代

金何程

薪何抱代

金何程

何々

小以金何程

(死者一人別小以ヲ以仕切記載スヘシ)

金何程

何々

内

金何程

何々

右請求候也

石川縣町戸長

明治何年何月何日

何某印

郡區長宛

已下書式畧之

○ 參考

○ 明治十二年一月十三日丙五番達中

郡區役所

一 棄兒迷子處分之事

是ハ從慈舊區戸長ニ於テ取扱候手續ニ照準取計ヲヘシ且棄兒養育

末ノ義ハ其事狀ヲ具伸伺ヲ經タル後ハ左ノ規則ニ準據渡方取計ヲ
ヘシ

一明治六年四月第百三十八號公布及其以後ノ公布ニヨリ一々年養育
末七年ヲ四季ニ分チ每季初月ニ於テ三ヶ月分取纏ノ相場スヘシ尤全
月未滿ノ端日數ノ分ハ日割ヲ以テ支給スヘシ

但下渡ノ末本人病死等ニテ過渡リニ相成ル分ハ返上致サスニ及
ハス

一右渡方ハ每季初月ニ於テ其地前月中ノ下末相場 每郡區中相場立
之々所平均直段
ヲ以代金ニ換ヘ豫備金ノ内ヨリ下渡シ追テ受取方申立ツヘシ

○第八

天災又ハ非常ノ難ニ遭ヒ目下窮迫ノ者具狀

○明治八年一月廿四日乾四十四番達

區長

別紙太政官第百六十二號(署之)御達相成候條自今右ヶ條ニ當リ候者
ニテ實ニ生業ヲ營ム能ハスレテ困窮目下難指置無告ノ窮民ニ限リ別
紙藥則ニ因リ實際入念相調可指出此旨正副戶長ヘモ篤ト可相達候事

○明治八年四月十九日乾二百九番達

區長

昨七年乾四十四番ヲ以濟貧救恤方相達候ニ付テハ總テ病ニ罹リ濟
貧適則ノ者ハ區長上申書ニ右規則各何項ニ照準云々書載致シ醫ノ
診斷書ヲモ相添可願出候様可致此旨相達候事

但已。願書中ノ者ニ醫ノ診斷書至急可差出候事

○明治八年七月三十日乾五百五十番達

區長

癩篤疾等ノ者窮民恤救ノ義ニ付本年乾四十四番同二百九番ヲ以相達
置候處今般内務省達ノ趣モ在之候條爾來取調方一層注意ノ上別紙藥

則ニ照準詳悉記載可致此旨正副戸長（モ篤ト可相達候事
但別紙（畧之）内務省達寫爲心得相達候也

癯疾老幼等亦貧ノ者救恤願樂則

（加賀能登）國第何區小何區某郡某（町村）何番屋敷（居住同居）

（何年目ヨリ何病何年何月何々トナル總テ病ノ變換ヲ記ス）

誰々長男女カ何業

一癯疾病老幼衰弱トカ

何 某
生年月日

右肩書之通何々病ニ因リ何々トナリ何業相繼罷在候得共何々ノ後
ハ營業能ハス（跛躄盲目ノ類ニテ營業仕奉ル者ノ事由詳記ス（シ）親
戚市村内隣保ノ情誼ニヨリ扶助能仕候共今後救助ノ目途云々或
ハ何々目途有之ニ付凡何々何々迄御救濟ノ義等事實詳細記載ス（シ）
但幼弱孤獨ノ者ハ何年何月ヨリ父母親戚等離別ノ事由詳記ス（シ）
家族七十年已上十五年以下癯疾等ノ者有之向ハ當主記名ノ左傍ニ
記シ同様事由詳細記ス（シ）

右ノ外ニ廉々モ前又ニ準シ記載可致余ハ是マテノ手續ヲ以一層調ヲ
ヘ方注意ス（キ）

○明治八年十一月十四日乾七百二十九番達

區 長

窮民救恤ノ義ニ付本年七月乾五百五十番ヲ以相達置候樂則且書ニ家族
七十年以上十五年以下云々ノ條（左ノ通附加候條此旨相心得正副戸
長等ヘモ篤ト可相達候事

期ノ如キ場合ニ於テ一家收入ニ及スキハ各自給與無之トモ可然ヤ

其適度ヲ斟酌シ可成丈減省ノ見込ヲ加フヘシ

○明治八年十一月十七日乾七百四十二番達

區 長

救恤規則ニ係ル癯病疾病人はマテ救恤願出ノ者ヨリ差出候醫師診斷
書記載方温々ニシテ勘査上差支不少候條自今別紙ノ條件ニ照準シ明
瞭ニ記載爲致願書ニ相添可差出此旨相達候事

當縣何族或ハ平民

何國何郡何町村住

姓名

- 一體質
- 一病名
- 一原因
- 一症候
- 一徑過
- 一處方
- 一豫後

年齡

當縣下何族何國

何郡何町村何所住

年号月日

醫術 姓名印

○明治十年二月五日丙四十九番達
 窮民救恤方一昨七年第百六十二號公布之通り、候所町村内等ニ於テ
 扶助不行届越ヲ以往々出願之者在之然ル。唯年齡或ハ廢疾等ノ名儀
 ニヨリ容易ノ願出候テハ公布ノ趣意ニ差戻候儀。付精誠市村内或

ハ隣保ノ情誼ヲ以協救致シ官救ヲ不待ヲ以本旨、シ直ニ不得止者而
 己左ノ箇條ニ照準調査シ可成官救減省ノ見込正副區長中可願出此旨
 相達候事

調査心得

- 第一條 一獨身老幼廢疾々病等ニテ何等ノ業ヲ為ス不能亦貧ニシテ
 市村内或ハ隣保等ノ情誼ニヨリ協救スト雖凡何ヤニヨリ不行届全
 ヲ無告ノ者而已ニ限ルヘシ
- 第二條 一同上協救手當不足ニシテ官ノ恤救ヲ不仰テハ補助不能等
 ノ如キハ市村内等ヨリ協救ノ米數或ハ金額ヲ詳記シ救額幾分ノ不
 足ヲ願フヘシ
- 第三條 一同上取調出願ノ者十三年已上七十歲以下ニシテ疾病中救
 助米賜ルト雖凡全快ノ期ヲ篤ト調査シ在葛支給不仰様注意スヘシ
- 第四條 一同上老衰幼弱等孤獨ノ者ハ何年何月父母親戚等離別ノ事
 由ヲ詳細記スヘシ
- 第五條 一同上出願ノ者保育スヘキ義理アル親類有之者ハ尤モ此限

ニ非サルハ勿論ト雖ニ若シ親類亦貧ニシテ現實扶助不能者ハ其親類ノ名前職業持高等在之向ハ反別且扶助不能事由共詳記シ本願ニ添ヘシ

但シ取調方五等親以上ノ者タルヘシ

第六條 一同上癡疾ノ者ト雖ニ跛躄盲目等ノ類ハ其業ニヨリ生産ノ途相立候者在之是等ニシテ若シ疾病等ニ罹リ終ニ營業不能前條取調ニ當リ出願候者ハ醫ニ診断書癡疾々病ノ事由分明書載スヘシ

第七條 一前條出願ノ者願書并醫ノ診断書別紙書式ニ準據事由細記可致若シ病体豫後醫師確察難致病疽ハ醫師二名以上ノ診断書在副フヘシ

第八條 一本人并余ノ家人ニ癡疾々病或ハ老幼ニテ同様難捨者ハ其節伺ノ上救助及フヘクモ有之右様ノ場合ニ於テハ各自救與致サストモ適度ヲ斟酌シ可成救額減省ヲ見込申出スヘシ(書式畧之)

○明治十二年一月卅一日丙四十六番達 郡區役所 從來有禄士族ノ儀ハ平民同一ノ救助不相成規ニ候處向後士族平民

ヲ論セス一時救助ノ者ハ本年丙五番達ニ照據施行候儀ト可相心得此旨相達候事

○參考

○明治十二年九月四日丁千八百三十六番達中 郡區役所

一既定ノ恤救米代逐季支給ノ事

別冊窮民恤救根帳根據トシ來ル十月分ヨリ逐季救助米代仕拂方取計フヘシ

但其身并家人ノ内規定ノ年齢ヲ越ユル者并病死等在之都度々々無遺漏届出スヘシ尤根帳ハ異動ノ時々加除シ仕拂方誤謬ナキヲ注意スヘシ

新タニ救濟ヲ願フ者ハ許可ヲ得タル上根帳ハ登録シ該月ハ許可ノ日ヨリ起算日割ヲ以給與シ翌月ヨリハ逐季三ヶ月或ハ一ヶ月分仕拂方取計フヘシ

但端日數日割渡シハ年額ヲ十二ヶ月ニ割合月額ヲ求メ而シテ給與ノ現日數ヲ乘シ然ル後該月ノ全日數ヲ除シ(厘止ノ無位四捨

五入)日割給與ノ額ヲ得ヘシ

癯疾老衰幼弱ノ者ハ年額及日當額ヲ以テ給スル分共石代ヲ以テ三ヶ月分取束子其初月ニ後チノ兩月ヲ括シ渡方取計ヘシ且疾病等ニテ日當給米ノ分ハ凡一ヶ月分ヲ其月初メニ繰上相渡候儀若シカラ

但本文三ヶ月分取束相渡候節ハ總テ渡前月ノ下米相場ヲ以石代給與スヘシ(實際交付ノ節マテニ前月相場調成シカタク事實差支候節ハ前月月相場ヲ用ヒ若シカラス又下米相場無之地ハ上米相場ノ一割減ヲ以計算スヘシ)且本人病死等ノ節ハ渡過ニ相成候分返納ニ及ハス

右ハ豫備ヲ以仕拂別紙雛形明細書ヲ添月纏メ翌月三日限請求方申出テ豫備金ヘ償還スヘシ(雛形畧之)

○第九 孝子節婦其他篤行ノ者具狀

○明治九年四月廿六日丙五十九番達 區 長

是迄區内孝子貞婦義僕ノ者具申文中徃々粗畧ノ向モ有之調査方差支候條爾來左之條件無違漏記載之上可差出此旨相達候事

○本人為人 ○本人年齢 ○本人行狀ノ詳細 ○志願ヲ疾セサル年限

○名譽郡邑ニ秀ルト或ハ鄉黨ニ顯ルト或ハ近隣ニ聞ルトノ區別

○參考

○明治十二年二月十七日丙七十六番達 郡區役所

明治十一年丙百八十五番達其役所委任條目ノ内諸物貨寄附ノ儀取扱方左ノ通為心得相達候事

一凡諸物貨(金幣調度土地ヲ論セス)ヲ學校病院或ハ道路橋梁堤防等凡公同ノ費ヲ以成立ツヘキ部分ヘ一已又ハ數人協同ヲ以全費若クハ幾部分ノ費用并必用ノ器械ヲ納メテ其用ニ充ントテ志望スルモノアラハ其情由ヲ詳ニ規則法律ニ觸レサルモハ其志望ヲ

廳納シ其事由ヲ具狀スヘシ尤土地器具ノ類ハ其價額ヲ取調併セテ上伸スヘシ

但土地ヲ寄附スルニ該地除稅ニ係ルモノハ此限ニアラス
郡區役所

○明治十二年三月廿二日丙百十番達
本年丙七十六番ヲ以諸物貸寄附取扱所方相達候處今般更ニ左ノ條件追加候條以來本文ノ手續ニ準シ届出ヘク此旨相達候事

但明治九年丙二百七十四番達ハ自然消滅候條ト相心得ヘシ
一諸物貸寄附ノ者ハ總テ一ヶ月取纏ノ縣廳ヘ届出ルモノト雖モ萃族并委任官及ヒ百圓以上ノ分ハ其時々届出スヘシ

一公債証書ヲ寄附スル分ハ譲リ渡シノ手續ヲ成シタル後届出ヘシ
一前條總テ届出シ候節ハ願意ノ類ヲ分チ(學事ニ關シ或ハ道路堤防等ニ關スル類ナリ)而シテ左ノ四種ニ區別シ種類毎金高ノ順序ヲ以表面ニ製シ願意(何々學校新築費ノ方ヘトカ)姓名及住所族籍等ヲ詳記シ該物貸納叙濟ノ趣ヲ副申スヘシ

但壹圓未滿ノ分ハ表面正副二通ヲ要ス

- 一 百圓以上
- 一 百圓未滿十圓以上
- 一 十圓未滿壹圓以上
- 一 壹圓未滿

○明治十二年六月二十七日丙百七十九番達
郡區役所

本年丙七十六番及丙百十番ヲ以諸物貸寄附取扱方心得相達候處自今窮民并水火風震ノ難ニ罷リタル者ヘ金員又ハ物品等施與候者モ右達ニ照準可取扱此旨相達候事

○明治十三年六月十二日丙九十五番達
郡區役所

孝子義僕其他篤志者ヘ賞狀等下附ニ付本人召喚候儀モ有之處今後賞狀等其役所ヘ相達候條直ニ戶長役場ヲ經本人ヘ傳達センノ候儀ト可相心得右ハ其筋ヨリ達ノ次第モ有之ニ付此旨豫テ相達置候事

○第十 町村ノ幼童就學勸誘

○明治十二年二月十二日丙七十二番達

郡區役所

戸長ハ幼童就學ヲ勸誘スルハ勿論ニ候得共其他校舍修築器械準備等町村ニ於テ協同保存スヘキ爲事ニ係ル一切ノ件ハ學區取締ハ協議ヲ遂ケ備フ校下ノ便宜ヲ謀リ永遠ヲ企圖致スヘキ様各戸長ハ可相達覽旨相達候事

○第十一

町村内ノ人民ノ印影簿ヲ整理

各區戶長

○明治六年六月七日達
 人民實印ノ義ハ 金錢之貸借及諸約定等諸事ノ証據ニ相成日用欠ク
 ヘカラサル大切ノ品ニ候及小前々々ニ至リ候テハ是迄實印輕卒ニ
 取扱ヒ所持不致者モ往々在之レカ為ノ種々不都合ノ儀差起リ終ニ
 一身一家ノ損失ヲ醸シ候儀少クカラス候ニ付戶主タル者必ス實印
 ナ製シ大切ニ所持致シ銘々金錢貸借其他諸事證據ト相成候書類ニ
 捺シ可申且各町村惣ハニ於テ勘台印鑑取立簿册ニ製シ相備置可申
 事

右之趣至急無漏可觸示者也

各區戶長

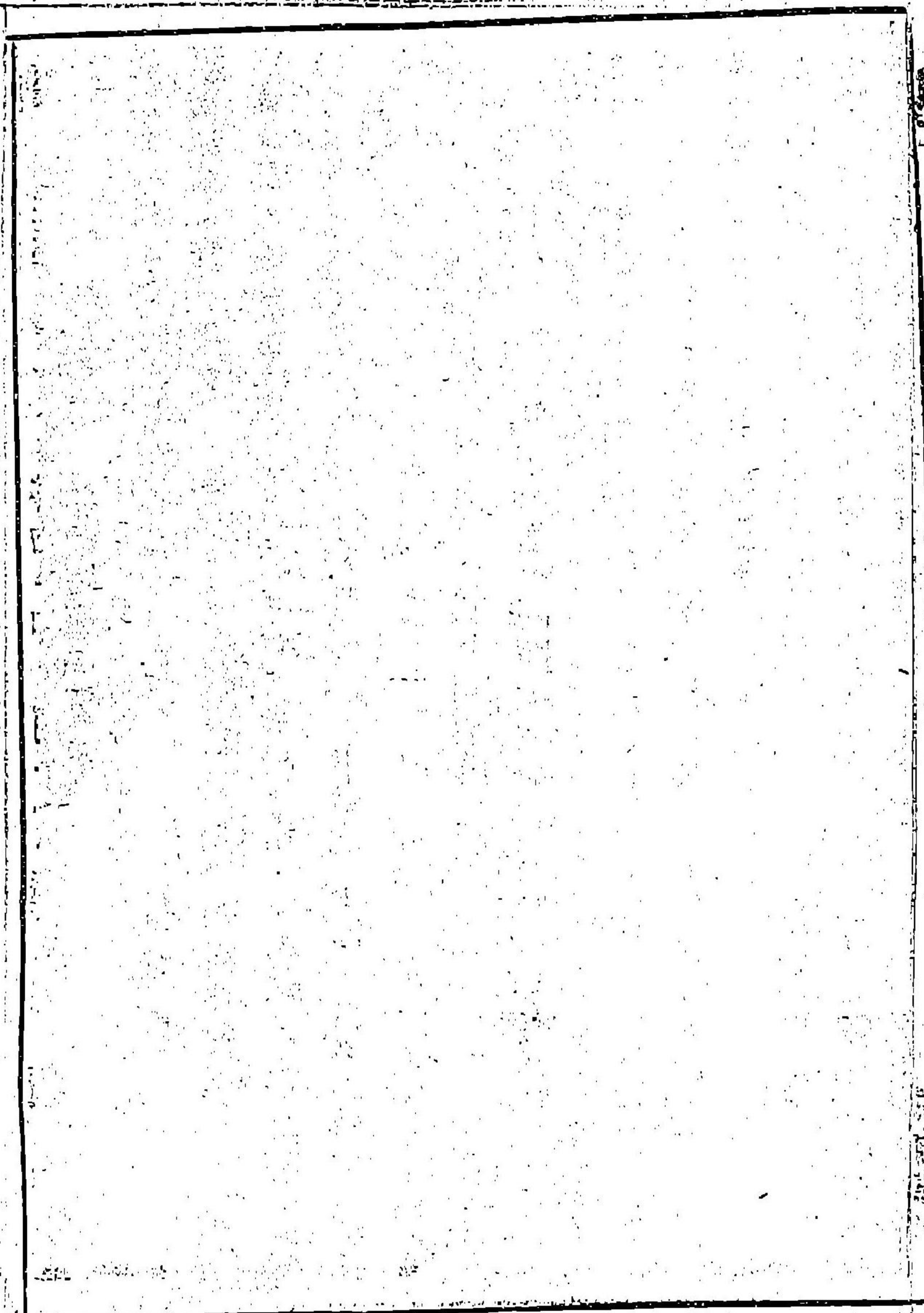
○明治六年七月十五日達

各人民實印ノ儀是迄二顆或ハ三顆用來候向在之候得共自今一顆ニ
 取極川申尤惣テ其町村區會所マテ見合印鑑指出置可申事

○明治七年九月二十二日三百五十三番布達

昨六年六月人民之實印ハ大切ニ取扱ヒ金錢之貸借始メ何事ニヨラス

後々ノ証據トナルヘキ書物ニ押シ用ニヘキ趣クワシク觸レ示シ置
 シカ兎カク心得ナルカ中ニハ是マテノ習ヒノ如ク一人ニテニツ三
 ツノ印ヲ所持シ思ヒヤニ用ニル者アルヨシ甚タ不都合ノコトナリ
 就テハ只今迄數種ノ印ヲ所持スル者ハ其内一ツヲ撰ミ定メ其餘ハ
 殘ラス取捨テ以後ハ必ス一人一印ヲ限リ用ニヘキモノト心得ヘシ
 但シ區戶長ヲ始メ勤向ノ調ヘ方ニ用ニル小印ハ全ク其調ヘ事ノ
 目印心覺ノ為メノミニ用ニル品ニテ帳面ニ押ス(今)印モ同様ト心
 得必ス實印ヲ押スヘキ所ヘ右小印ヲ用ニマシク候シカシ小印一ツ
 ニテ實印ヲ所持セサル者ハ同様ニ兼テ用ニルコト妨ナシ
 右ノ通管内無漏布達候事



○第十二 諸帳簿保存管守

區戶長

○明治十一年十月廿九日丙百五十八番達
 舊記帳簿ノ類ハ後來ノ証據トナリ行政上ハ勿論町村ノ交際上ニ於テ
 必用ノ品ニ候處從來村役人替り合ノ節公用留記ノ書類授受ノ成規モ
 無之ヨリ當座必用ノ申繼ヲ除クノ外ハ惣テ舊吏ノ手元ニ相殘リ畢
 ニ不用ノ古反ニ歸シ後々ニ至リ取調フヘキ節事ヲ缺キ交際上或ハ
 纏シテ生シ候場合ニ臨ミ照合スヘキ前鑑ヲ失ヒ不便ノミナラス人民
 ノ權利ニ妨害ヲ生スル儀往々不少候條從前町村役人相勤候家々ニ在
 之候公務ニ關係候留記手扣ノ類ハ不殘其町村副戶長ハ引送副戶長ニ
 於テハ其類別ニ因リ他ニ關係ノ分ハ區戶長ノ差圖ヲ總受自今擔當
 内ニ關スル書類ハ悉皆取纏ヲ篤ク保護ノ道ヲ盡サセ向來散逸セサ
 ル様夫々可取斗此旨相達候事

○明治十三年一月廿一日庚五十五番達

郡區役所

各廳記錄又書保存ノ儀ニ付テハ明治八年四月第六十八號御達ノ趣モ
 有之處各町村公有記錄繪圖面等モ右ニ準據シ嚴重ニ取締相立目錄

二通ヲ作り一ハ之ヲ各町村ニ留テ一ハ之ヲ郡區役所ニ備ヘ從前散
 失ノ舊記檢書并新製ノ分ハ年々之ヲ追加シ主管者轉免等ノ節ハ目錄
 ニ突合セ引繼致スヘク其余判然私有物ニシテ後証モ可相成モノハ
 各地方ニ於テ相當取斗イタシ代價ヲ要セス相納候モノハ獻納書籍
 ノ例ヲ以テ相當賞賜可伺出且又時宜ニヨリ官吏派出檢査爲致候儀
 モ可有之候條其節不都合無之條ヨリ達ノ趣有之候條本年四月限
 リ前條目錄ヲ各郡區役所ニ取立届出ヘク且獻納書籍ノ例ヲ以テ取扱
 相成ヘクモノ、如キモ申出ヘク此旨相達候事

○明治十三年七月十七日庚辰八百六十二番達

本年五月庚辰六百十六番ヲ以各町村記録繪圖面等取調方ノ儀ニ付追而
 何分之儀相達候マテ届方可相見合旨相達置候處今般左ノ手續ニ照準
 取調來ル八月五日限可届出此旨相達候事

第一項

目錄貳通ヲ作り一ハ之ヲ各町村ニ留テ一ハ之ヲ郡區役所ニ備フル
 トハ記録繪圖面ヲ各町村ニ備置郡區役所ニハ其目錄ノミヲ備置シ現

品ハ渾テ騰寫備置スルニ及ハス

第二項

主管者轉免等云々トハ直ニ簿册ヲ管スルモノ、轉免ニシテ目錄等
 ヲ管スヘキ郡區役員ノ儀ニ無之ト心得フヘシ

第十三

官費府縣費ニ係ル河港道路提防橋梁其他
修繕保存スヘキ物ニ就キ利害具狀

○明治六年七月十五日各區戶長別紙之通及前達候條此未提防等破損
致シ候者於有之者見付次第可届出様河邊村々へ可申渡候事

各區戶長

管内諸川ニ於テ川狩殺生ノ爲メ隈リニ提防ヲ踏ミ荒シ蛇籠等破
損致候由先以心得違ノ所業以テノ外ニ候條爾後右様ノ所業於有
之者見付次第姓名取糺シ速カニ可届出旨河邊村々へ申渡置候條此
段心得ノ爲メ無違漏一同へ可相達候事

明治六年七月十五日

石川縣權令内田政風
越中國區長

○明治九年七月十四日丙百一番達

道路掃除ノ儀ハ明治五年太政官第三百二十五番公達ノ趣ニ照準シ各
自持場等清潔ニ可致ハ勿論ニ候ヘレ尙自今毎年一月ヨリ三ヶ月毎
翌月五日期リ一大區宛道路景况ノ儀可届出此旨相達候事

○町村協議費

○明治十二年四月二十一日甲五十七番布達
官有地第二種第四種及七第三種但書ニ適スル地所へハ地方税ヲ賦セ
ス候條此旨布達候事

但町村協議費ハ指出スモノト相心得ヘシ

○明治十二年四月二十八日丙百四十一番達 郡區役所

町村協議費未出者他ノ負債ニヨリ身代限處分ニ相成候節ハ未出金受
取方戸長ヨリ直チニ其裁判所へ為訴出候儀ト可相心得此旨相達候事

正誤

三丁三行其他ハ地ノ誤○全丁四行浦記ハ証ノ誤○全丁五行變換ハ
 換ノ誤○全丁九行車物ハ杯ノ誤○五丁十行其舊ハ共同ノ誤○六丁
 九行於事務ヲハ於テ事務ノ誤○九丁十四行等ニ閑ハ等閑ニノ誤○
 十丁七行何日中ハ何月中ノ誤○十一丁十一行日々ハ月々ノ誤○十
 三丁十一行金納ヲハニノ誤○十五丁十三行一時ハ一里ノ誤○二十
 丁十行スル者トハ者ハノ誤○二十二丁十行賣卸ハ賣却ノ誤○二十
 六丁一行キタラハキラクノ誤○全丁八行シキタリ丁ンハジキタリ
 フ丁ノ誤○全丁十四行揮發着性癒ハ性着癒ノ誤○六十六丁二行可
 送ハ可遂ノ誤○全丁第一條ノ上廊外甲十五番ハ八十五番ノ誤○又同
 條文中商業興ノ下廢ヲ脱ス○七十四丁第一号雛形買受願ハ營業願ノ
 買受願ハ買受願ノ

誤又上野外國付舟ハ附屬舟ノ誤○七十七丁三行何所雜船ハ雜船ノ誤
 ○八十四丁二行貸ノ付ハ貸付ノノ誤○八十五丁七行二圖ノ數ハ乙
 圖ノ類ノ誤○九十九丁雜形唐紙ハ草ノ誤○百九丁十行但書一上ハ
 一々ノ誤○全二行賣營ノ中藥ノ字ヲ脫ス○百二十二丁三行區務取
 締ノ區ハ醫ノ誤○百十六丁一行船車手賣藥馬賣買ハ船車牛馬賣買賣
 藥ノ誤○百廿一丁表面六印ノ行預收ハ領収ノ誤○百廿七丁七行末次
 ハ末項ヘノ誤○全丁八行區務新ヘハ區務所ヘノ誤○百四十二丁一
 行割註内七番ハ内百七番雜形ハ雜形ノ誤○百四十三丁七行普通漁ノ
 下トハノノ誤○百四十三丁十行生業ノ下ヲハノノ誤○百四十八丁
 一行取締規則ハ規則ノ誤○百五十一丁一場ニ於テ云々割註時季ヲ
 ノ下異ニシテノ四字ヲ脫ス○全丁右書二行當村内暨ノ下隣境ノ二字

ヲ脫ス又該漁吏ハ該村吏ノ誤○百五十二丁隣境云々ノ割註隣境年
 隣々ハ隣境隣漁村々ノ誤○百五十五丁一行繼メハ極メノ誤○全丁十
 一行二十九日ハ二十七日ノ誤○百五十八丁三行小賣所ハ小賣所ノ誤
 ○百六十三丁壹行爲サシムノ下ヘシノ二字ヲ脫ス○百七十五丁五行
 營業雜稅取扱得必書ハ取扱心得書ノ誤○百八十七丁看板雜形最初
 ノ分諸物賃ハ賃ノ誤○百九十丁發行割註中出外ハ此外ノ誤又之月ハ
 六月ノ誤○百九十二丁第三條上序外甲五才ハ番ハ五十壹番ノ誤○百
 九十五丁五行及ヒ微毒ハ微毒ノ誤○百九十六丁二行授業ノ下所ノ
 字ヲ脫ス○二百四丁八行女子ノ上婦ノ字ヲ脫ス○全丁十行右様ノ下
 事ノ字ヲ脫ス○全丁十三行割註是合ハ見合ノ誤○二百五丁本人不在
 ノ例ノ下該何々ハ誰何々ノ誤○二百六丁四行正副共ノ下封ハ致ノ誤

○二百七十三行戸長ハ戸籍政年ハ政事ノ誤○全丁十三行申書ハ申
 出ノ誤○二百八十七行區副ハ正副ノ誤○二百九丁寺何所何字ハ何宗
 ノ誤○全丁赤行計區ハ計正ノ誤○二百十四丁六行平民ノ下其ハ共ノ
 誤○二百十四丁七行取來ハ取東ノ誤○二百十七丁十壹行區副ハ正副
 ノ誤○全丁十五行百三十三番ハ百二十三番ノ誤○二百十九丁六行親
 旅ハ親族ノ誤○二百二十三丁四行佐渡ハ俗家ノ誤○二百廿二丁十一行
 戸長記印ハ証印ノ誤○二百二十五丁八行出ルハ去ルノ誤○二百廿八
 丁四行族屬ノ下モハ何ノ誤又該書式中養男女トアルハ都テ幾男女ノ
 誤○二百卅二丁四行通議ハ協議ノ誤○全丁十行節ハノ下二事實ハ事ニ
 害ノ誤○二百卅三丁一行通知置ノ下其ノ字ヲ脱ス○二百三十三丁七行
 送籍ノ下願ハ証ノ誤○二百三十四丁九行寺授ハ換ノ誤○二百卅九丁二

行縣令ハ掛合ノ誤○二百四十九丁七行書入トノ下諸建物ノ書入質ト
 ノ八字ヲ脱ス○二百五十五丁八行一艘ハ般ノ誤○二百五十八丁五行
 都度ノ下新ノ字ヲ脱○二百六十三丁三行系綿ハ線ノ誤○二百六十四丁
 一行賣買濟ハ賣渡ノ誤○全丁三行本文ノ下トハノノ誤○二百六十八丁
 三行數ハ類ノ誤○全丁五行畑仕作ヲ付ルハ畑作ヲ仕付ルノ誤○二百
 七十八丁末行相用ハ相聞ノ誤○二百八十五丁一行乙ヨリハヨリ乙ノ
 誤○二百八十八丁四行七年ハ七斗ノ誤○二百九十丁五行何年目ハ何
 年月ノ誤○全丁六行誰々ハ誰誰ノ誤○二百九十四丁七行醫ニハ醫ノ
 ノ誤○二百九十六丁八行前月ハ前々月ノ誤○二百九十九丁八行羅
 リハ羅リノ誤○三百一丁四行爲事ハ學事ノ誤○三百九丁十一行番ハ
 号ノ誤

明治十三年七月三十日板權免許
全 年十一月廿六日發兌

定價 五十一錢

石川縣金澤區油車十八番地

編纂人 鶴見武三郎

全區長町川岸新建十一番地

出版人 吉本次郎兵衛

發賣書肆

金澤區長町川岸
北 溟 社

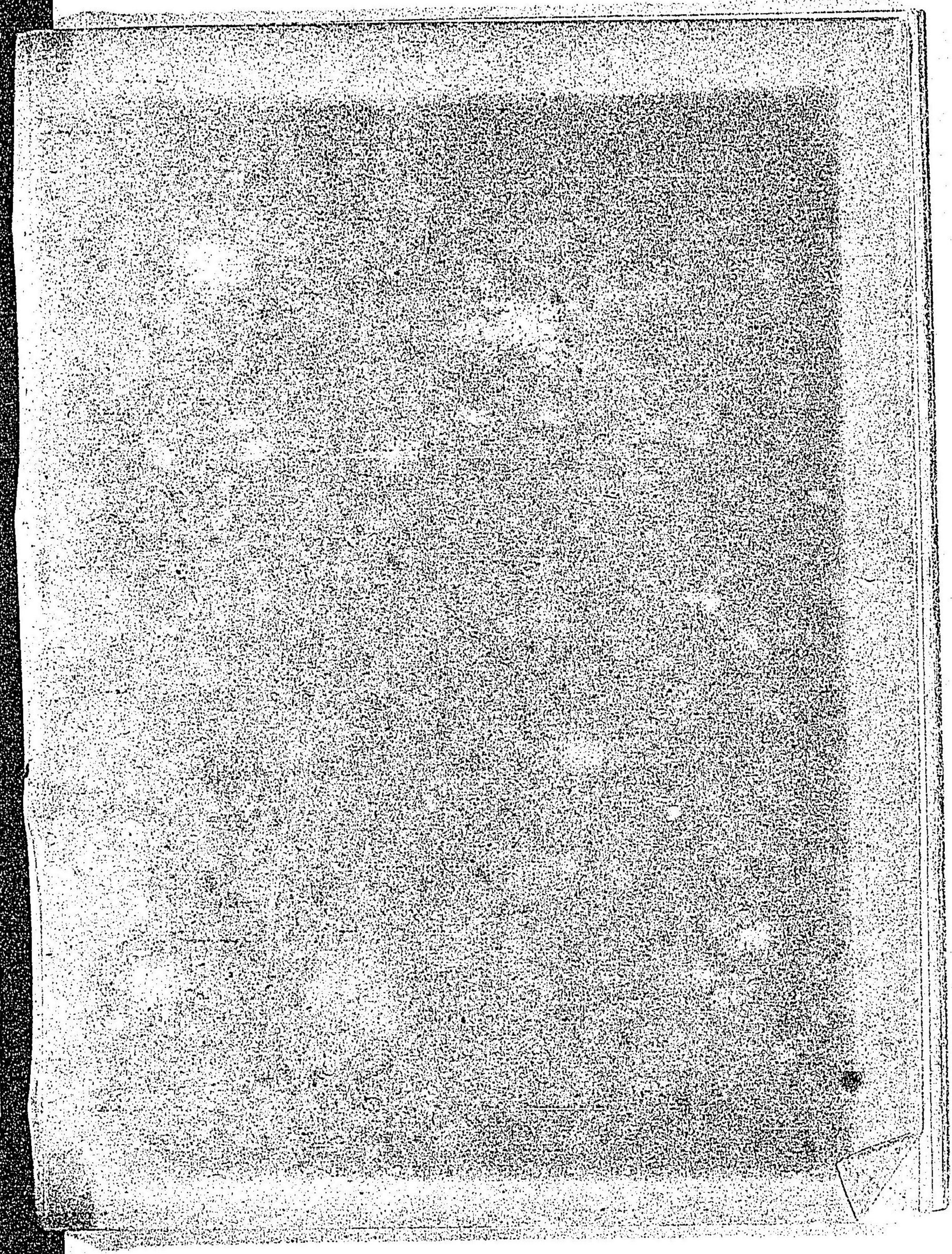
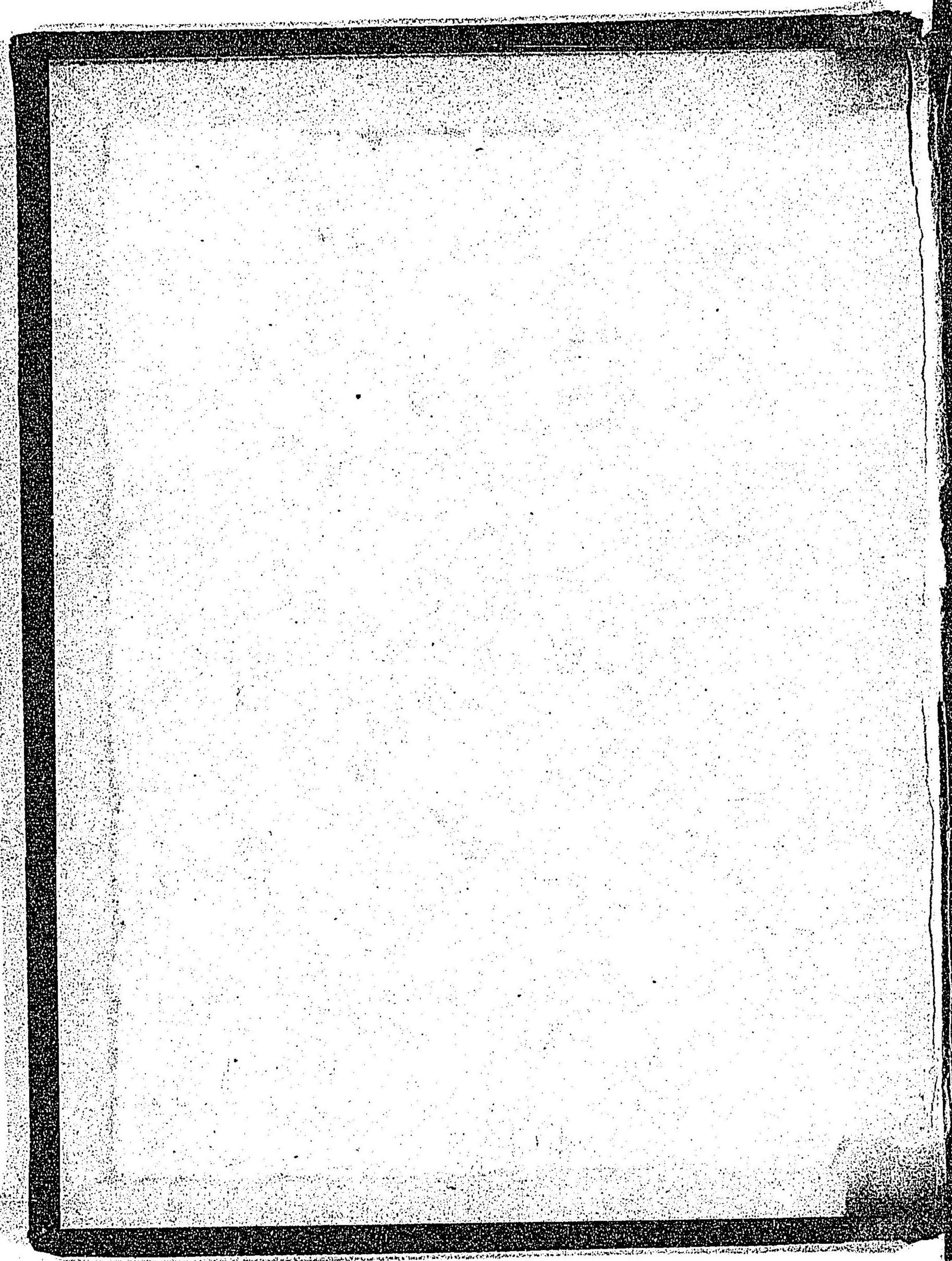
全區廣坂通
北溟社支局

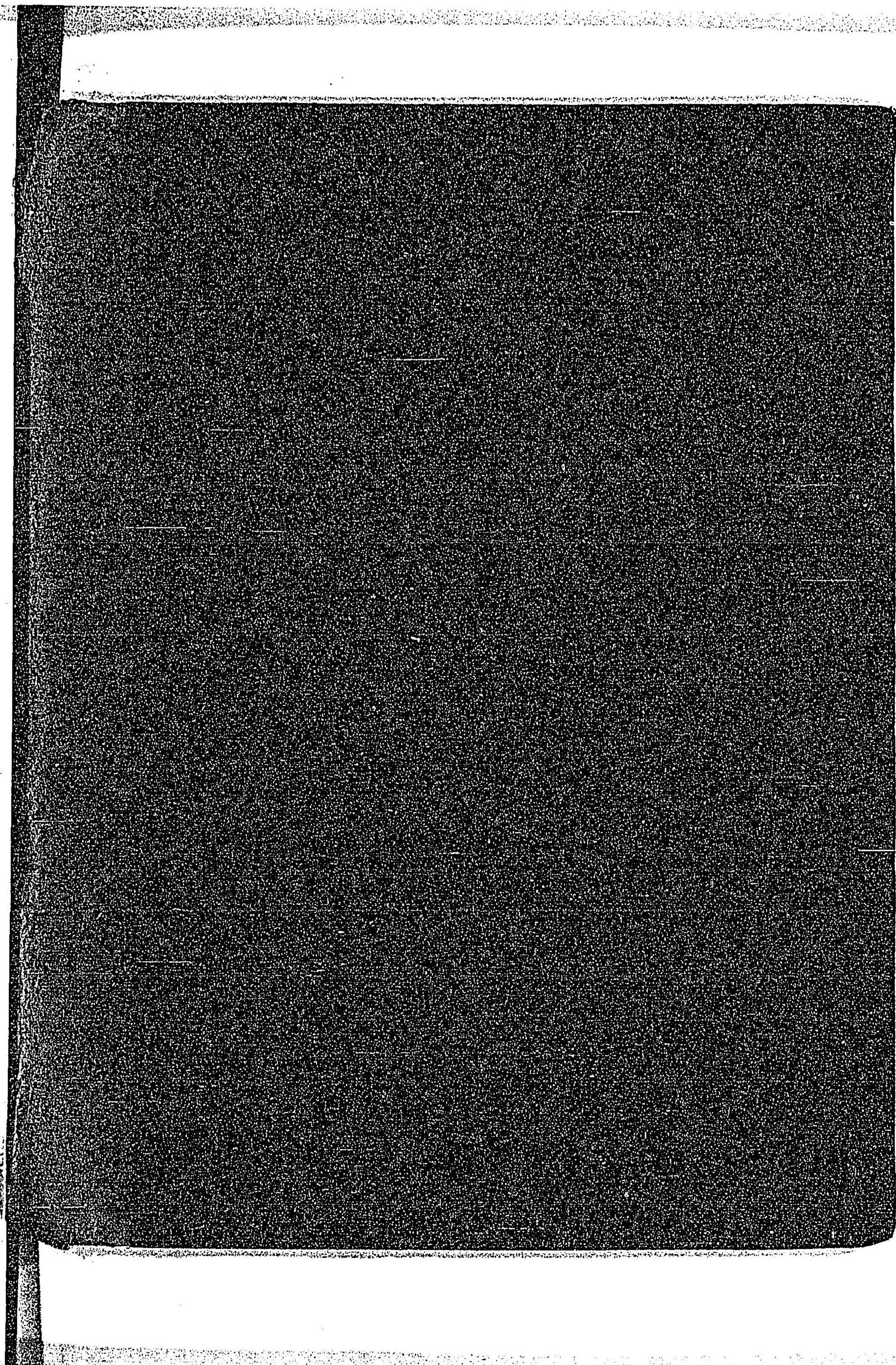
全區南町
池 善 平

越前國福井縣
岡崎左喜介

越中國富山西町
大橋 甚吉

能登國七尾阿良町
中森 喜六







031171-000-8

CZ-1113-48-07

石川県戸長職務心得

鶴見 武三郎/編

M13

BBD-0042



